県内の交通事故の現状
（令和7年上半期）

鹿児島県警察本部交通部
交通企画課統計分析係

– 2025.7 –

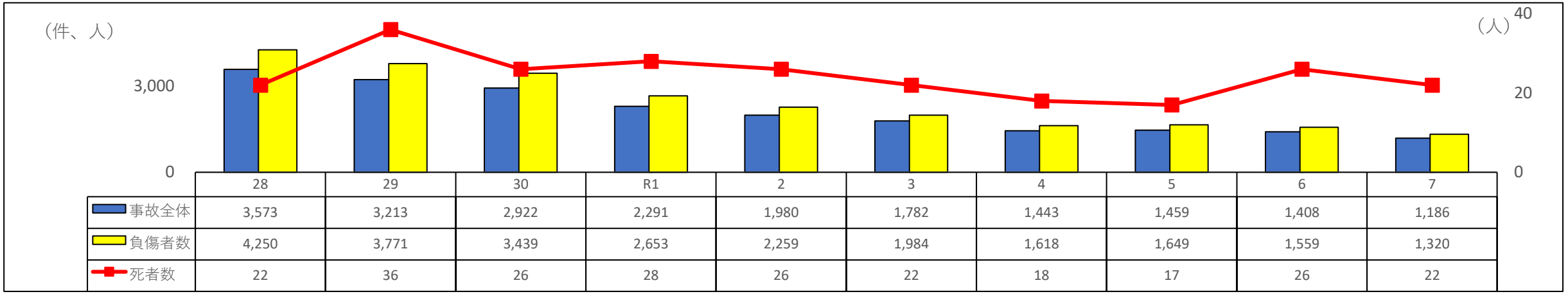
目次

1	県内の交通事故の推移（過去10年間上半期）
2	四輪車乗車中の死傷者の状況について
3	二輪車乗車中の死傷者の状況について
4	自転車乗用中の死傷者の状況について
4 － 1	自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況について
5	歩行中死傷者の状況について
5 － 1	歩行中死傷者の状況について（高齢者）
6	こどもの事故の状況について
7	反射材着用状況について
8	高齢運転者事故（第１当一般原付以上）の状況について
9	飲酒運転事故（第１当一般原付以上）の状況について

1　県内の交通事故の推移（過去10年間上半期）

- 発生件数、死者、負傷者数は前年に比べ減少（図１）
- 状態別では、死者、死傷者ともに自動車乗車中が最も多い。（図２、図３）
- 高齢死者は、平成15年以降、22年連続で死者の過半数を占め、令和７年上半期中の高齢死者は死者全体の約68.2％を占める。（図４）
- 第１当高齢運転者による人身事故の構成率は、過去10年間で緩やかに増加し、令和７年上半期中の構成率は約33.9％を占め、交通死亡事故の構成率は約50.0％を占める。（図５）

図1　発生件数，負傷者数，死者数の推移



	28	29	30	R1	2	3	4	5	6	7
事故全体	3,573	3,213	2,922	2,291	1,980	1,782	1,443	1,459	1,408	1,186
負傷者数	4,250	3,771	3,439	2,653	2,259	1,984	1,618	1,649	1,559	1,320
死者数	22	36	26	28	26	22	18	17	26	22

図2　状態別死者数（R7）

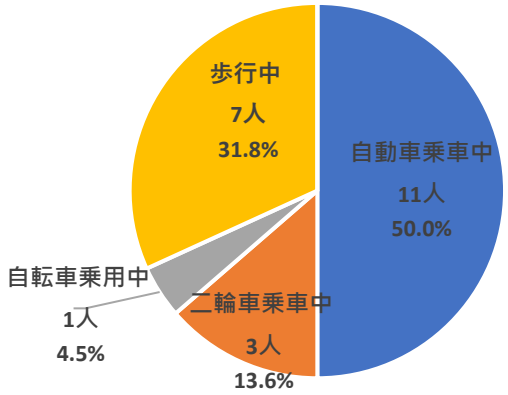


図3　状態別死傷者数（R7）

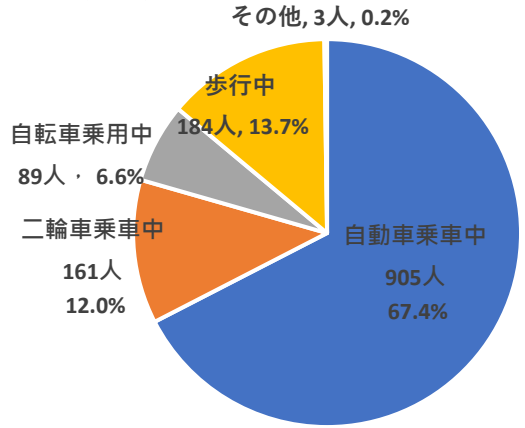


図4　死者全体に占める高齢死者の構成率の推移

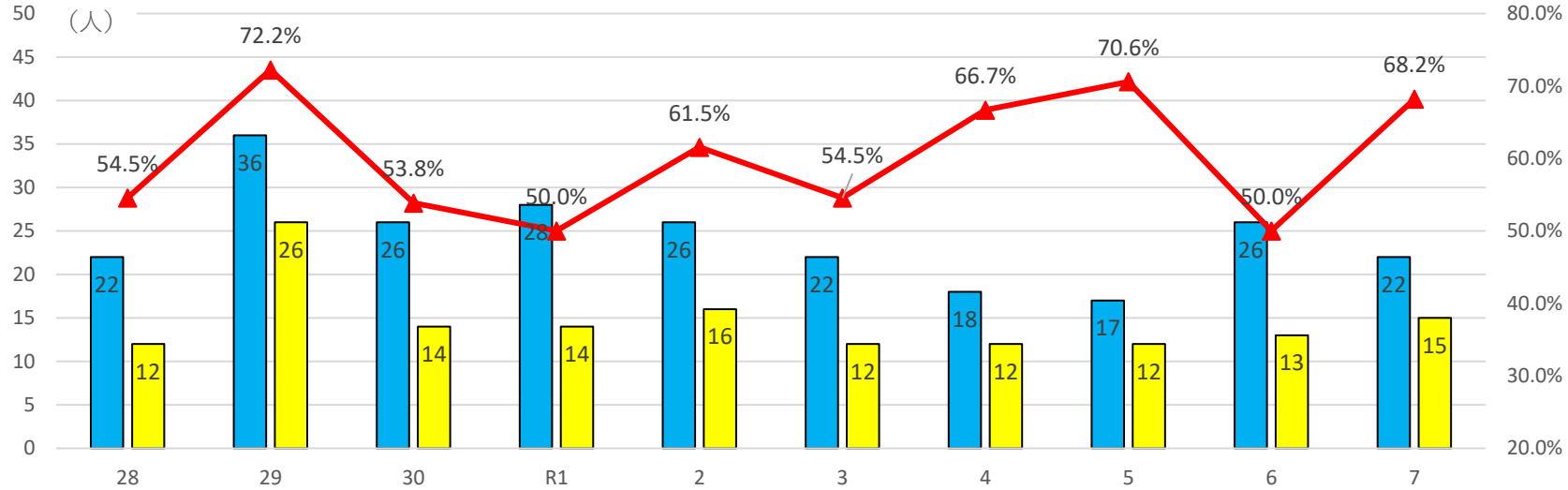
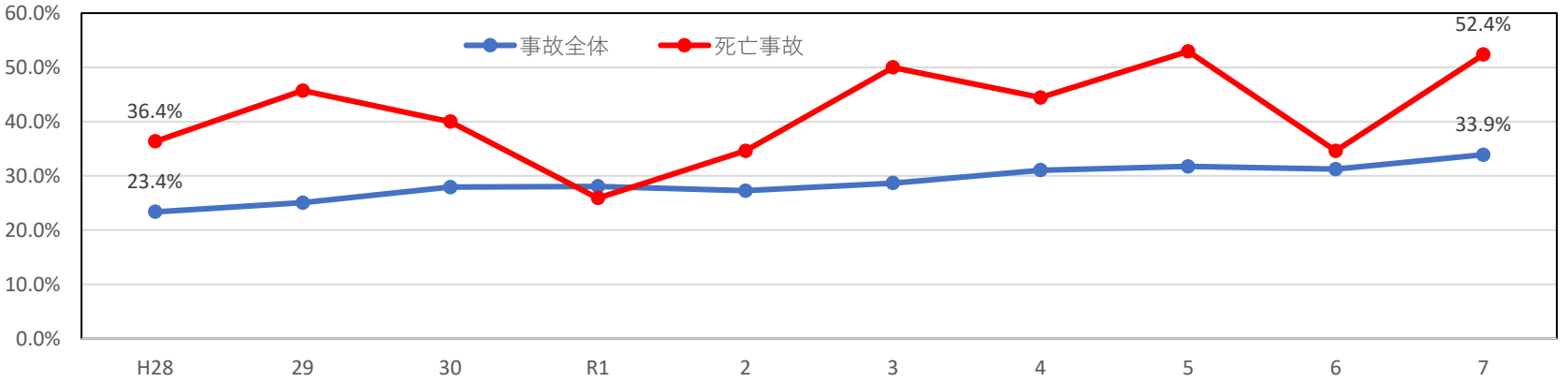


図5　第1当高齢運転者による構成率の推移

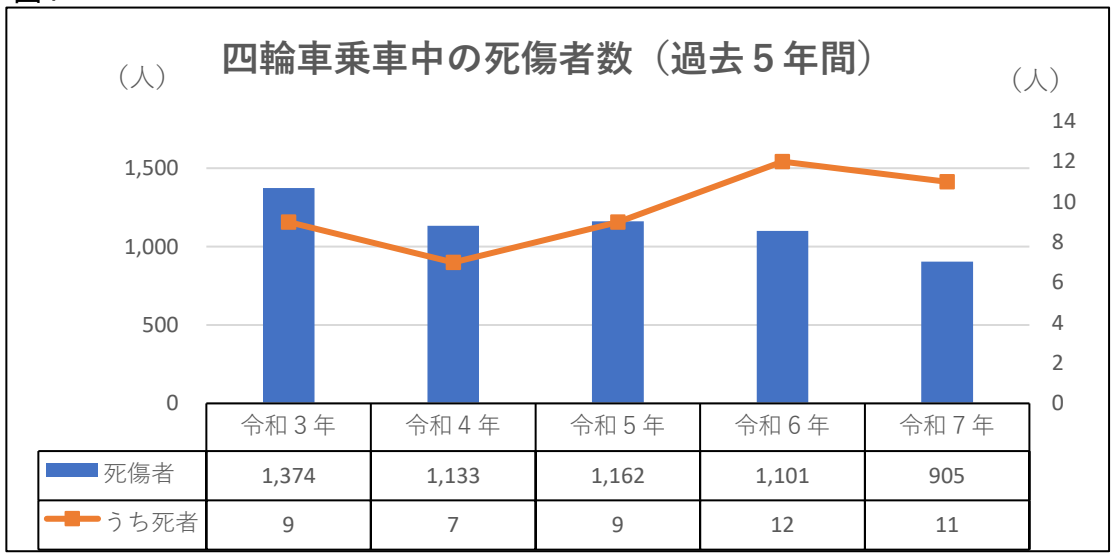


区分/年別	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
事故全体	3,573	3,213	2,922	2,291	1,980	1,782	1,443	1,459	1,408	1,186
うち高齢運転者	835	805	816	643	540	511	448	463	440	402
構成率	23.4%	25.1%	27.9%	28.1%	27.3%	28.7%	31.0%	31.7%	31.3%	33.9%
死亡事故	22	35	25	27	26	22	18	17	26	21
うち高齢運転者	8	16	10	7	9	11	8	9	9	11
構成率	36.4%	45.7%	40.0%	25.9%	34.6%	50.0%	44.4%	52.9%	34.6%	52.4%

2　四輪車乗車中の死傷者の状況について

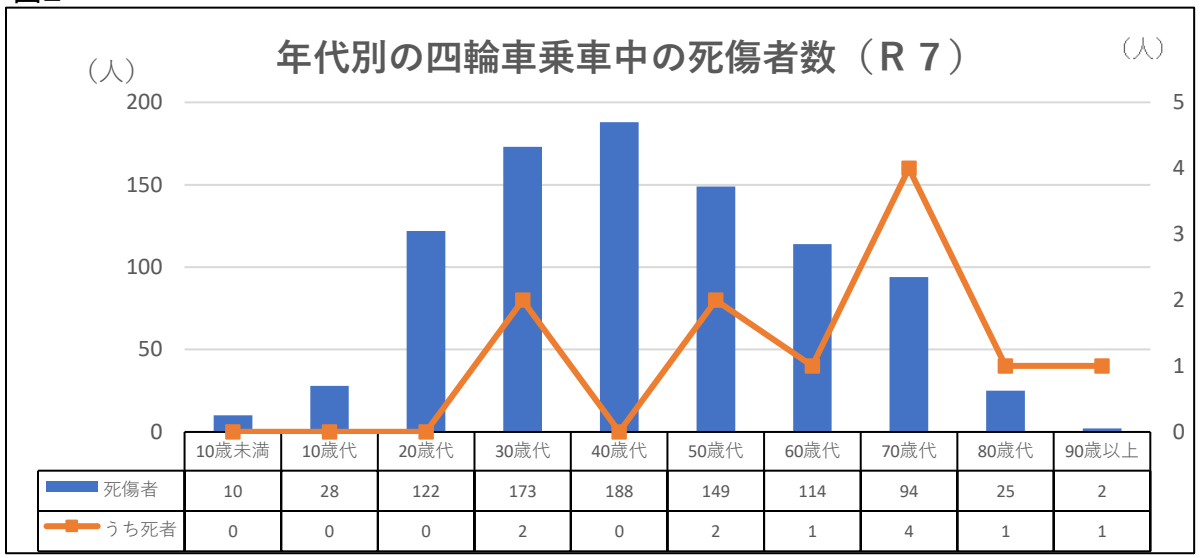
- 死傷者数、死者数は前年より減少（図１）
- 年代別の死傷者は40歳代が最も多く、次いで30歳代、50歳代が多い（図２）
- 時間帯別の死傷者は16～17時台が最も多く、次いで８～９時台が多い（図３）

図1



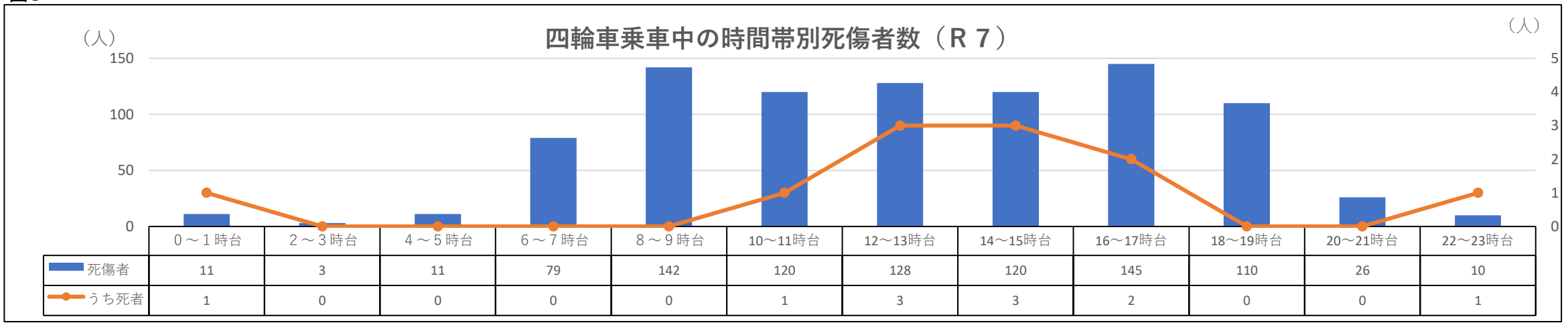
	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
死傷者	1,374	1,133	1,162	1,101	905
うち死者	9	7	9	12	11

図2



	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
死傷者	10	28	122	173	188	149	114	94	25	2
うち死者	0	0	0	2	0	2	1	4	1	1

図3

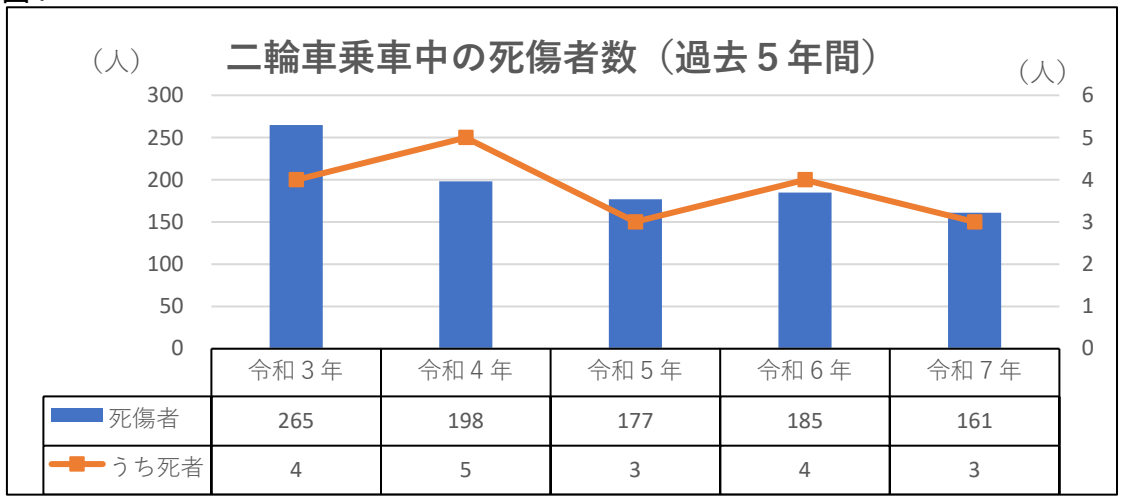


	０～１時台	２～３時台	４～５時台	６～７時台	８～９時台	10～11時台	12～13時台	14～15時台	16～17時台	18～19時台	20～21時台	22～23時台
死傷者	11	3	11	79	142	120	128	120	145	110	26	10
うち死者	1	0	0	0	0	1	3	3	2	0	0	1

3　二輪車乗車中の死傷者の状況について

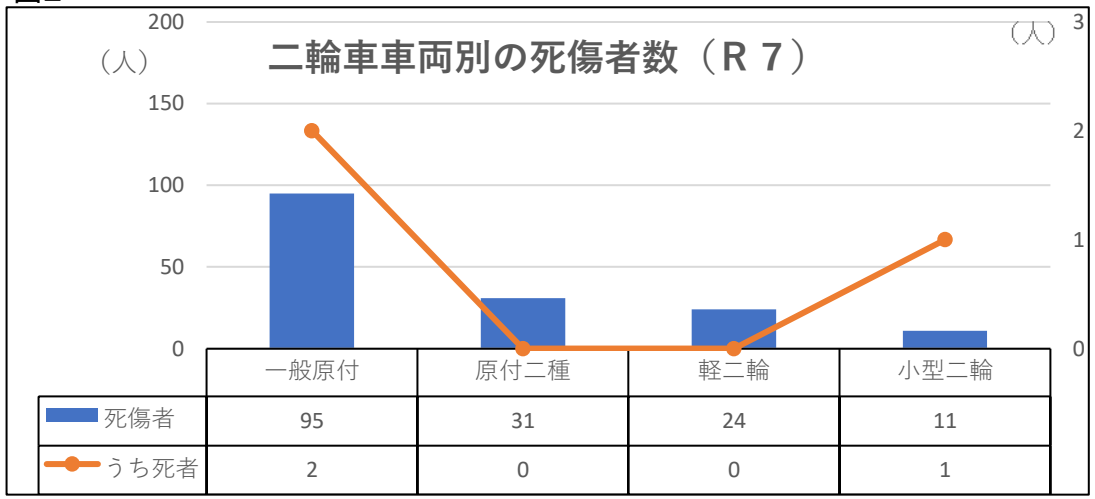
- 死傷者数、死者数は前年より減少（図１）
- 当事者別の死傷者は、一般原付が最も多く、次いで原付二種が多い（図２）
- 年代別の死傷者は30歳代が最も多く、次いで40歳代が多い（図３）
- 時間帯別の死傷者は16～17時台が最も多く、次いで18～19時台が多い（図４）

図1



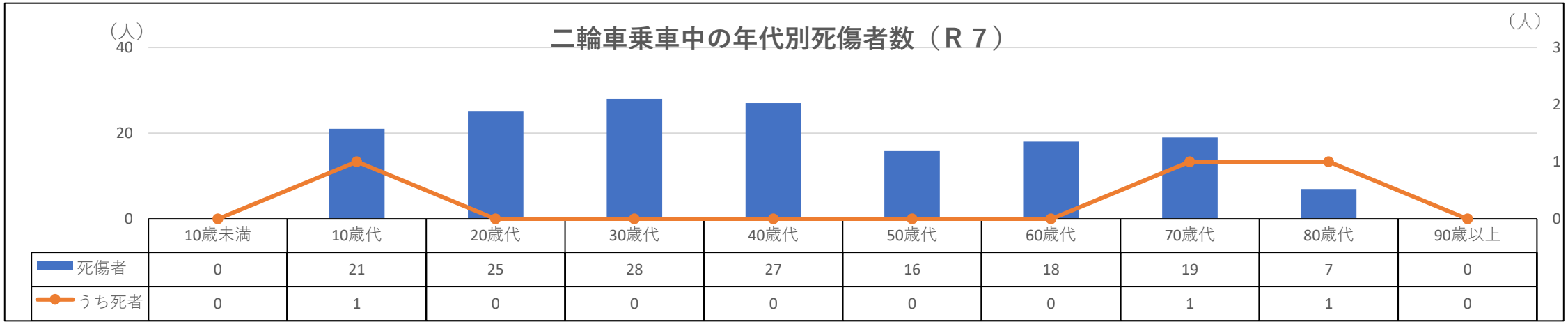
	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
死傷者	265	198	177	185	161
うち死者	4	5	3	4	3

図2



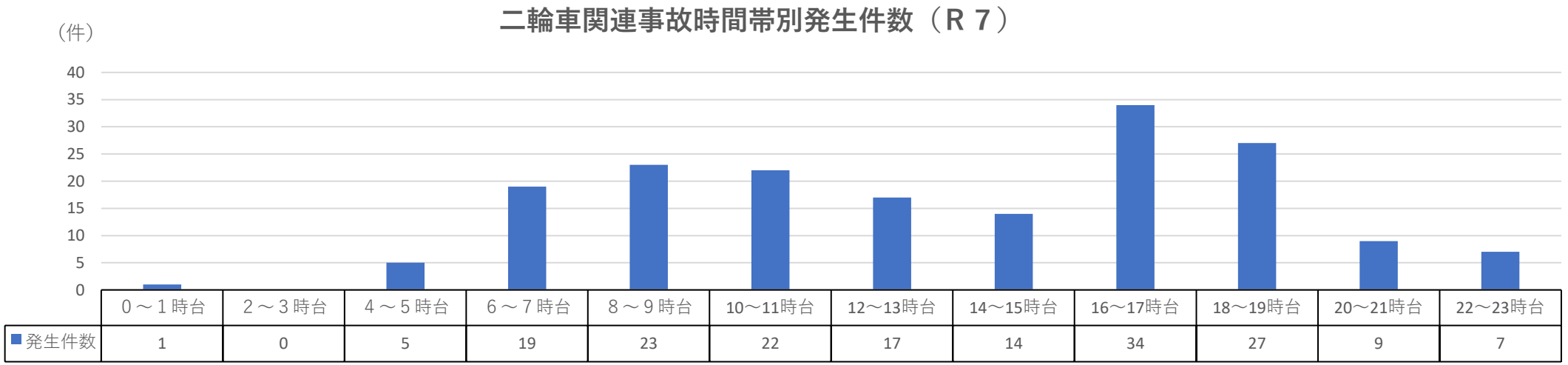
	一般原付	原付二種	軽二輪	小型二輪
死傷者	95	31	24	11
うち死者	2	0	0	1

図3



	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
死傷者	0	21	25	28	27	16	18	19	7	0
うち死者	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0

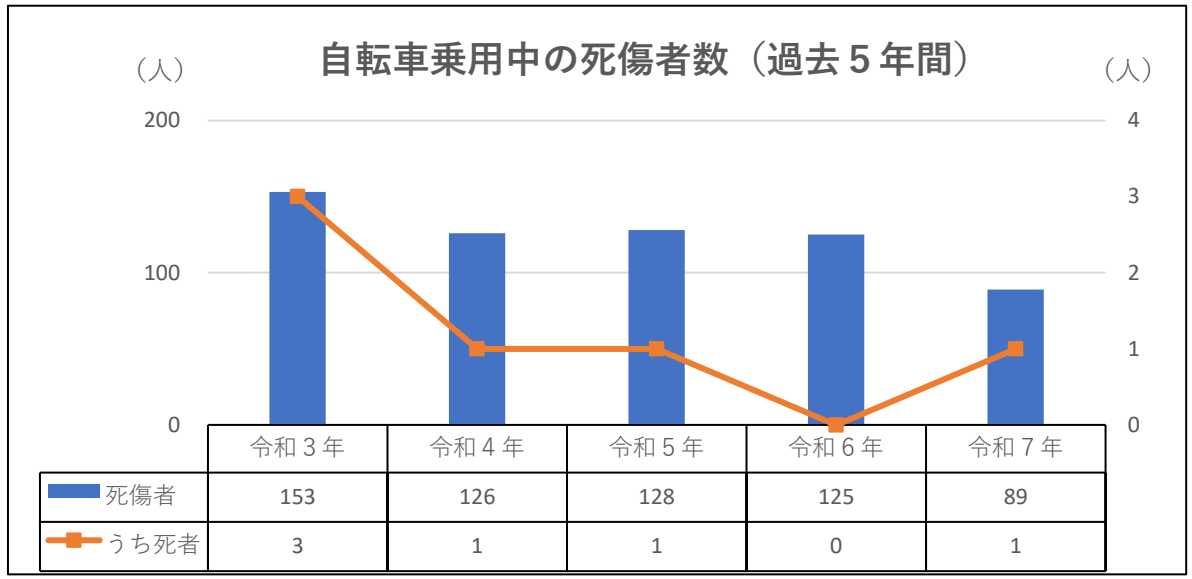
図4


二輪車関連事故時間帯別発生件数（Ｒ７）
（件）
40
35
30
25
20
15
10
5
0
0～1時台
2～3時台
4～5時台
6～7時台
8～9時台
10～11時台
12～13時台
14～15時台
16～17時台
18～19時台
20～21時台
22～23時台
発生件数
1
0
5
19
23
22
17
14
34
27
9
7

4　自転車乗用中の死傷者の状況について

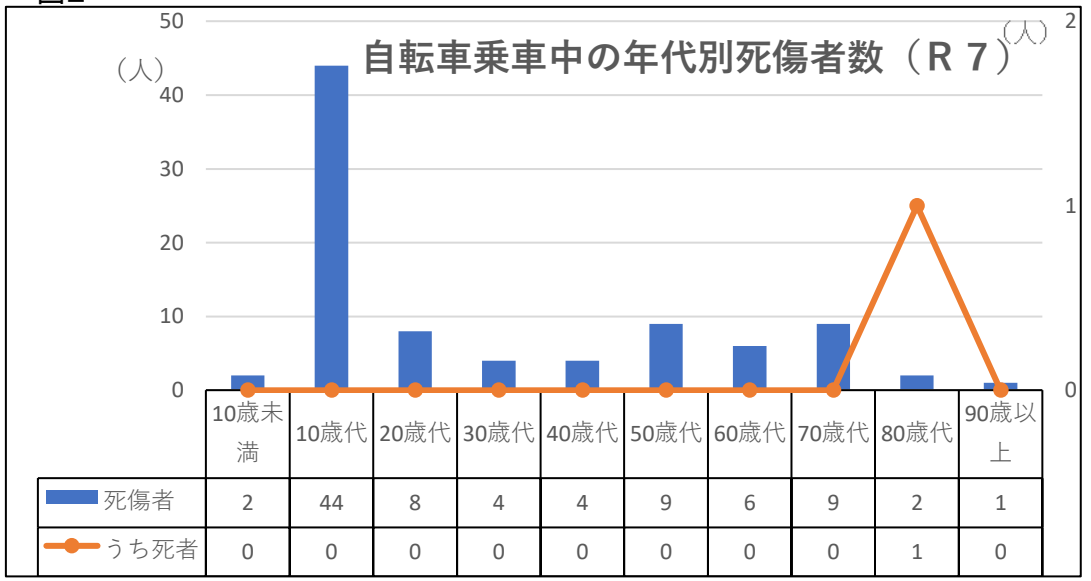
- 死傷者数は前年より減少したものの、死者数は増加（図１）
- 年代別の死傷者は10歳代が最も多く、次いで50歳代が多い（図２）
- 時間帯別の死傷者は12～13時台が最も多く、次いで６～７時台、16～17時台が多い（図３）

図1



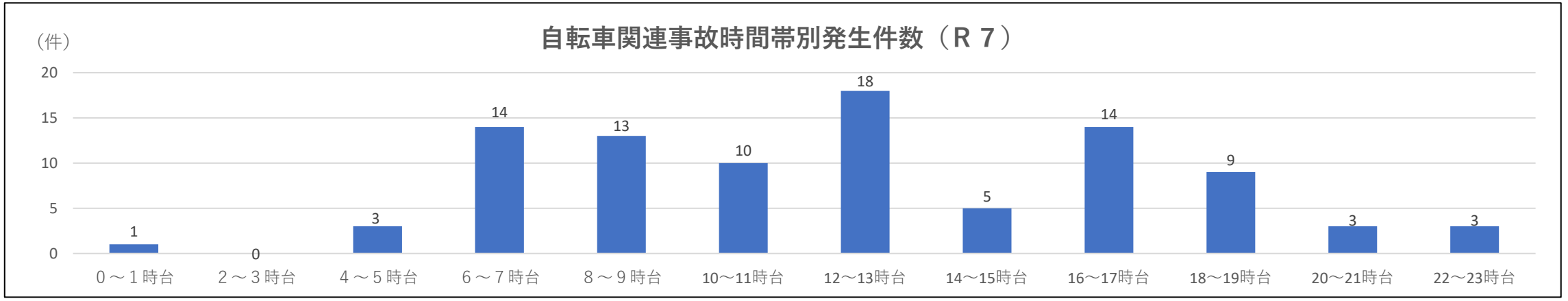
	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
死傷者	153	126	128	125	89
うち死者	3	1	1	0	1

図2



	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
死傷者	2	44	8	4	4	9	6	9	2	1
うち死者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

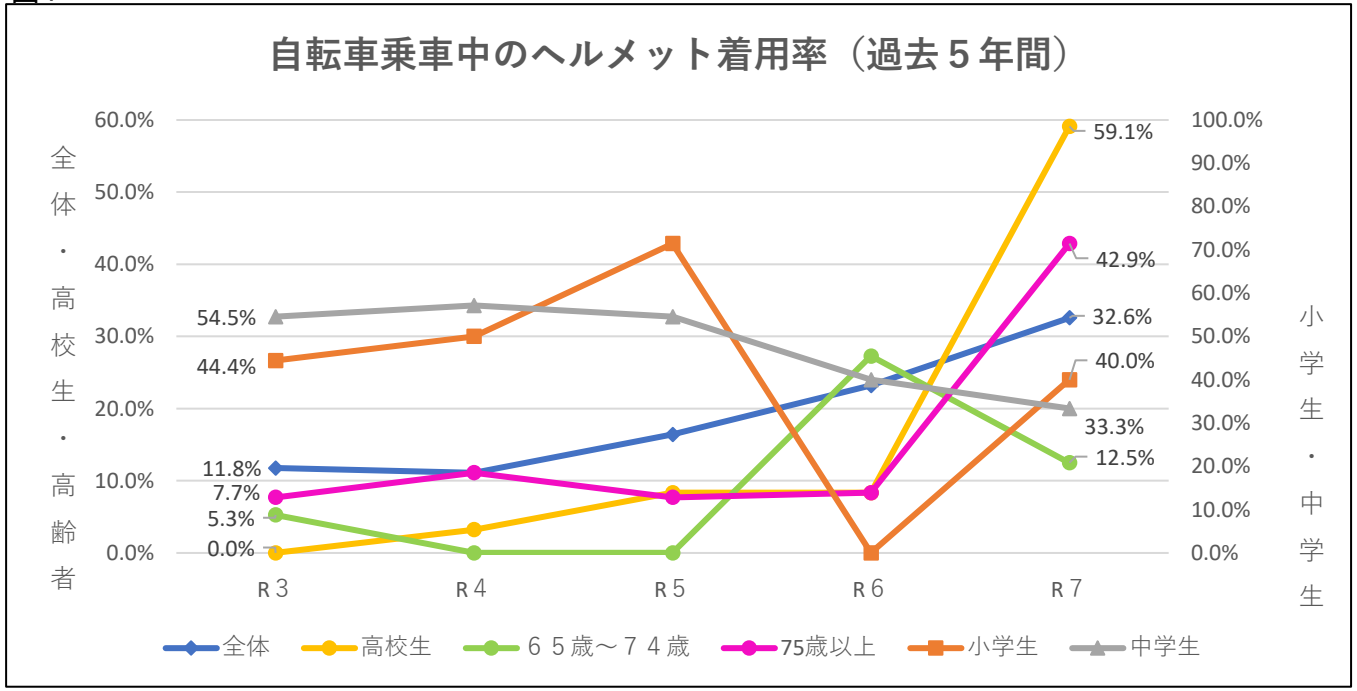
図3



4－1　自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況について

- 全体の着用率は32.6％で、前年より9.4％増加（図１、表１）
- 小学生のヘルメット着用率は40.0％で、前年より40.0％増加（図１、表１）
- 中学生のヘルメット着用率は33.3％で、前年より6.7％減少（図１、表１）
- 高校生のヘルメット着用率は前年より59.1％で、前年より50.8％増加（図１、表１）

図1



	全体	小学生	中学生	高校生	65歳～74歳	75歳以上
R3	11.8%	44.4%	54.5%	0.0%	5.3%	7.7%
R4	11.1%	50.0%	57.1%	3.2%	0.0%	11.1%
R5	16.4%	71.4%	54.5%	8.3%	0.0%	7.7%
R6	23.2%	0.0%	40.0%	8.3%	27.3%	8.3%
R7	32.6%	40.0%	33.3%	59.1%	12.5%	42.9%

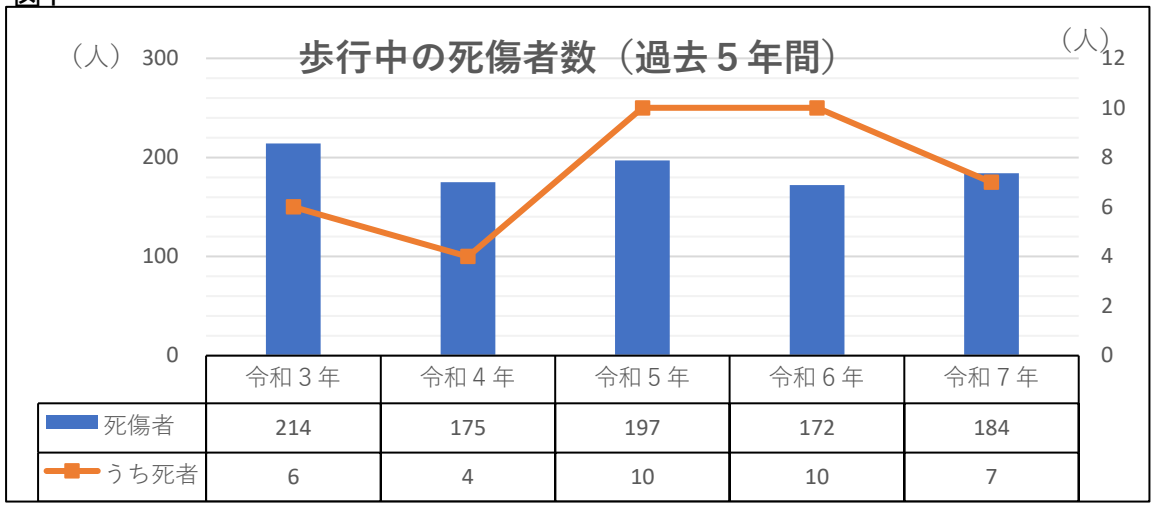
※「着用不明」は「非着用」として集計した。

全体	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	153	18	11.8%
R4	126	14	11.1%
R5	128	21	16.4%
R6	125	29	23.2%
R7	89	29	32.6%
小学生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	9	4	44.4%
R4	4	2	50.0%
R5	7	5	71.4%
R6	3	0	0.0%
R7	5	2	40.0%
中学生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	11	6	54.5%
R4	7	4	57.1%
R5	11	6	54.5%
R6	5	2	40.0%
R7	12	4	33.3%
高校生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	19	0	0.0%
R4	31	1	3.2%
R5	24	2	8.3%
R6	24	2	8.3%
R7	22	13	59.1%
65歳～74歳	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	19	1	5.3%
R4	11	0	0.0%
R5	8	0	0.0%
R6	11	3	27.3%
R7	8	1	12.5%
75歳以上	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	13	1	7.7%
R4	18	2	11.1%
R5	13	1	7.7%
R6	12	1	8.3%
R7	7	3	42.9%

5　歩行中死傷者の状況について

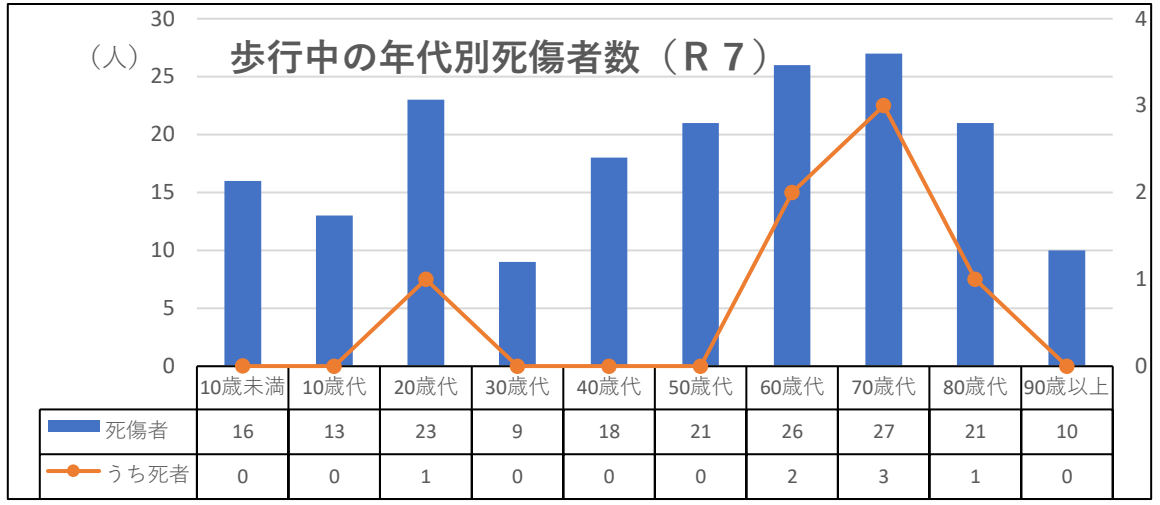
- 死傷者数は前年より増加、死者数は減少（図１）
- 年代別の死傷者は、70歳代が最も多く、次いで60歳代が多い。（図２）
- 道路形状別の死傷者は、交差点が最も多く、路線別では市町村道が、時間帯別では18～19時台が最も多い。（図３、４、５）
- 夜間における致死率は、昼間の約2.1倍である。（図６）
- 横断方向別の死傷者は、昼間は左から右が多く、夜間は右から左が多い。（図９）

図1



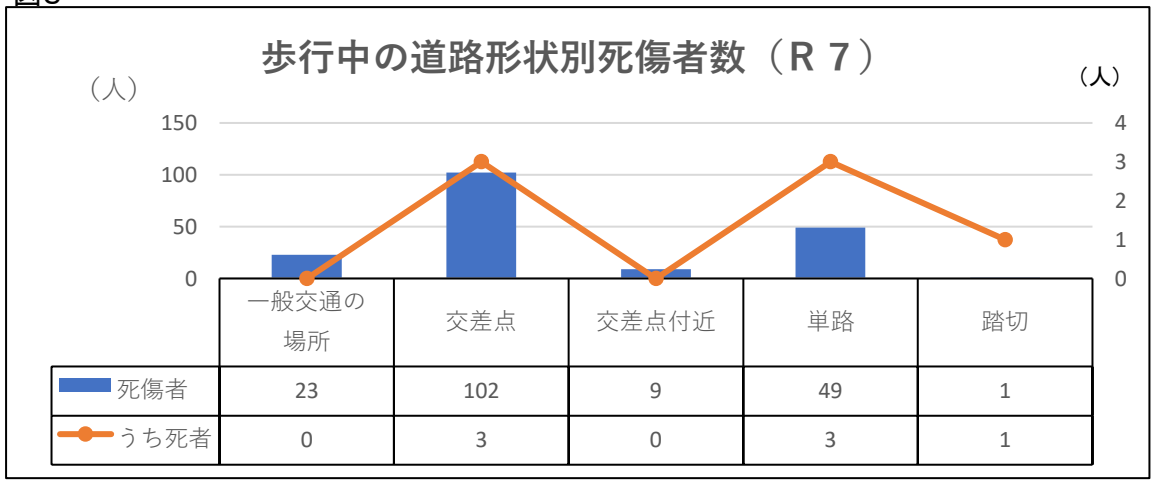
	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
死傷者	214	175	197	172	184
うち死者	6	4	10	10	7

図2



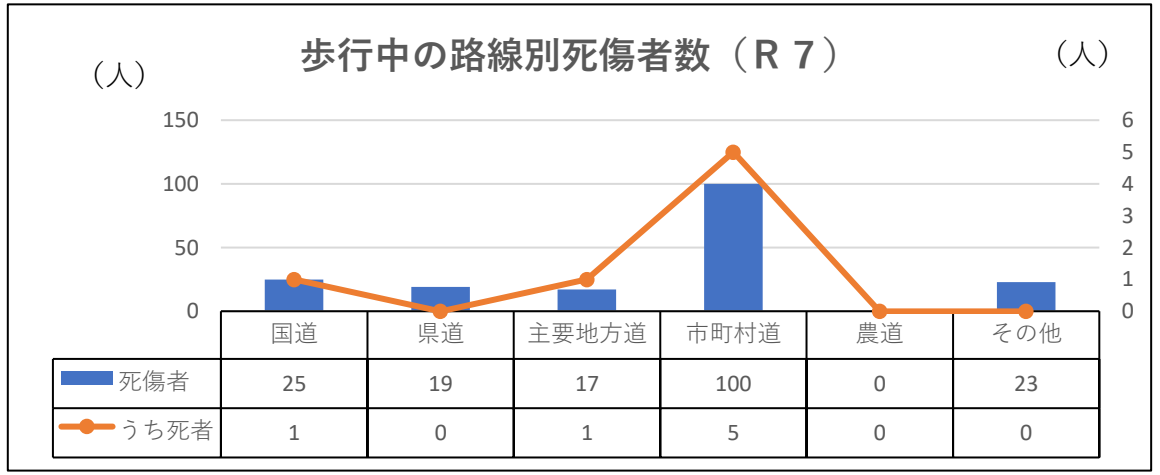
	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
死傷者	16	13	23	9	18	21	26	27	21	10
うち死者	0	0	1	0	0	0	2	3	1	0

図3



	一般交通の場所	交差点	交差点付近	単路	踏切
死傷者	23	102	9	49	1
うち死者	0	3	0	3	1

図4



	国道	県道	主要地方道	市町村道	農道	その他
死傷者	25	19	17	100	0	23
うち死者	1	0	1	5	0	0

図5

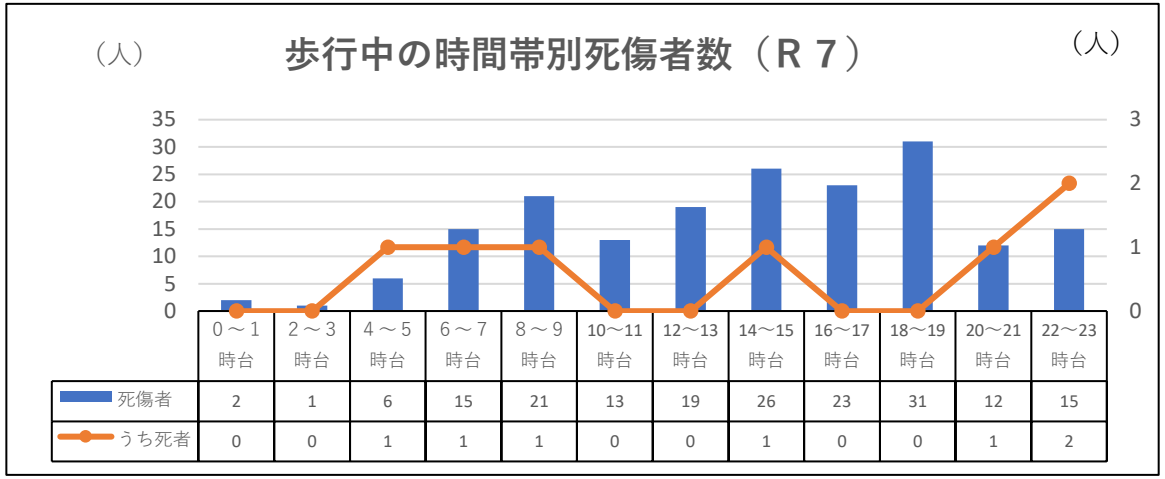

歩行中の時間帯別死傷者数（Ｒ７）
（人）
（人）
0～1時台
2～3時台
4～5時台
6～7時台
8～9時台
10～11時台
12～13時台
14～15時台
16～17時台
18～19時台
20～21時台
22～23時台
死傷者 2 1 6 15 21 13 19 26 23 31 12 15
うち死者 0 0 1 1 1 0 0 1 0 0 1 2

図6

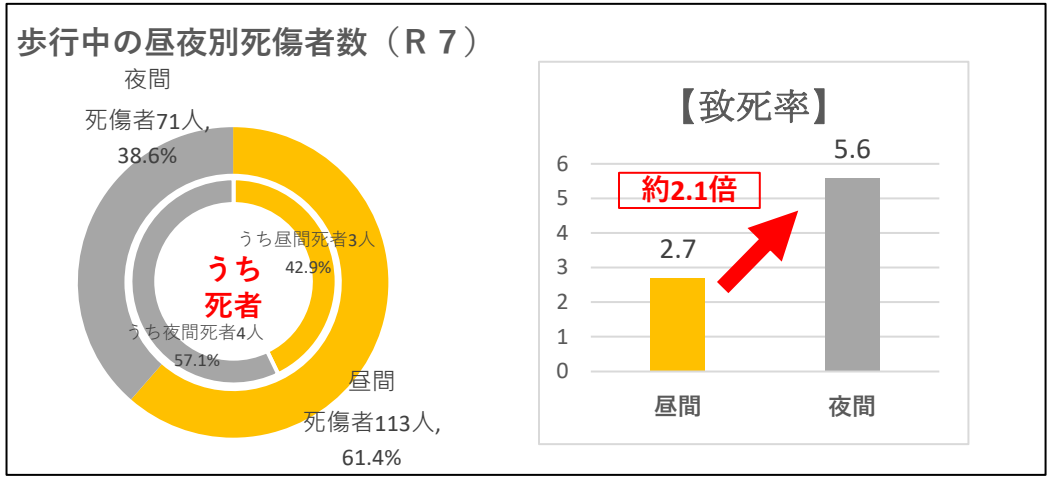

歩行中の昼夜別死傷者数（Ｒ７）
夜間
死傷者71人,
38.6%
うち昼間死者3人
42.9%
うち
死者
うち夜間死者4人
57.1%
昼間
死傷者113人,
61.4%
【致死率】
約2.1倍
2.7
5.6
昼間
夜間

図7

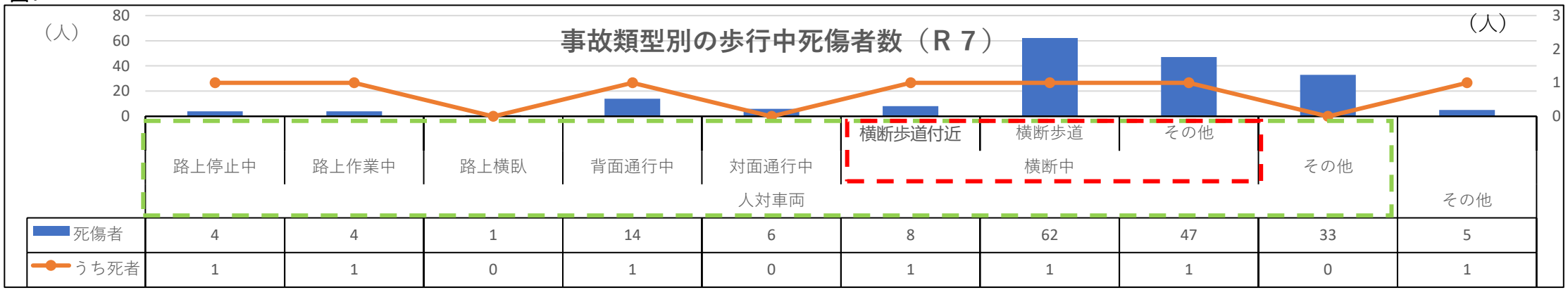

事故類型別の歩行中死傷者数（Ｒ７）
（人）
（人）
路上停止中
路上作業中
路上横臥
背面通行中
対面通行中
人対車両
横断歩道付近
横断歩道
横断中
その他
横断中
その他
その他
死傷者 4 4 1 14 6 8 62 47 33 5
うち死者 1 1 0 1 0 1 1 1 0 1

図8

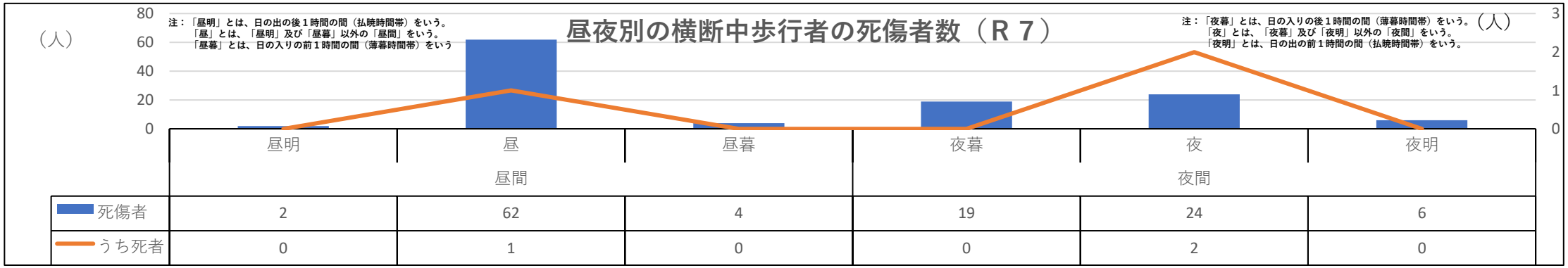

昼夜別の横断中歩行者の死傷者数（Ｒ７）
（人）
（人）
注：「昼明」とは、日の出の後１時間の間（払暁時間帯）をいう。
「昼」とは、「昼明」及び「昼暮」以外の「昼間」をいう。
「昼暮」とは、日の入りの前１時間の間（薄暮時間帯）をいう
注：「夜暮」とは、日の入りの後１時間の間（薄暮時間帯）をいう。
「夜」とは、「夜暮」及び「夜明」以外の「夜間」をいう。
「夜明」とは、日の出の前１時間の間（払暁時間帯）をいう。
昼明
昼
昼暮
夜暮
夜
夜明
昼間
夜間
死傷者 2 62 4 19 24 6
うち死者 0 1 0 0 2 0

図9

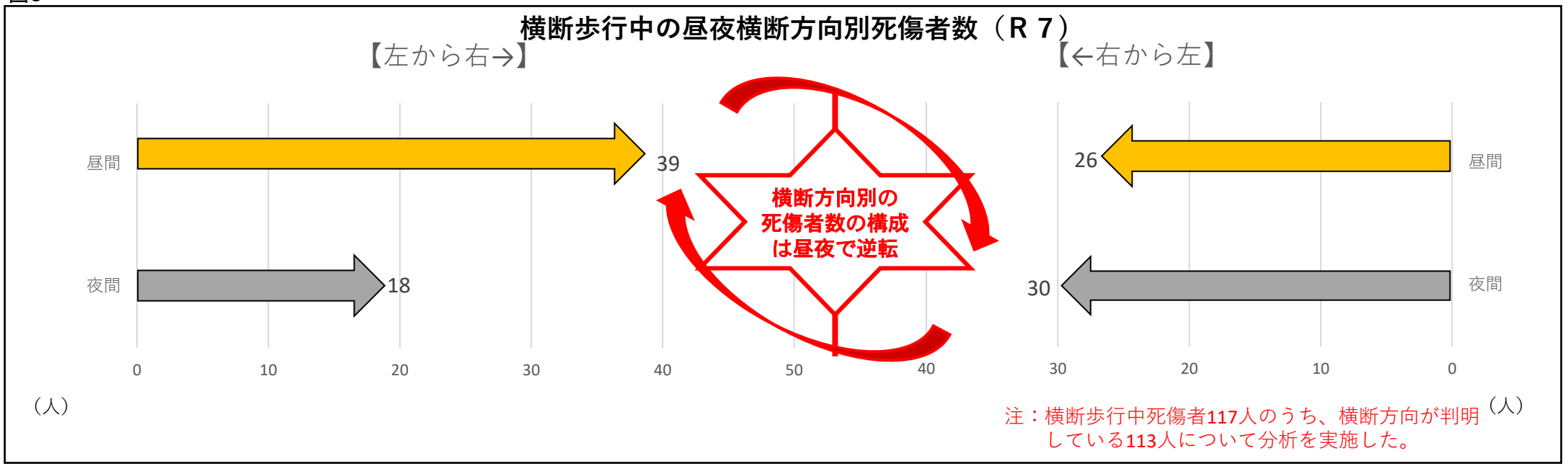
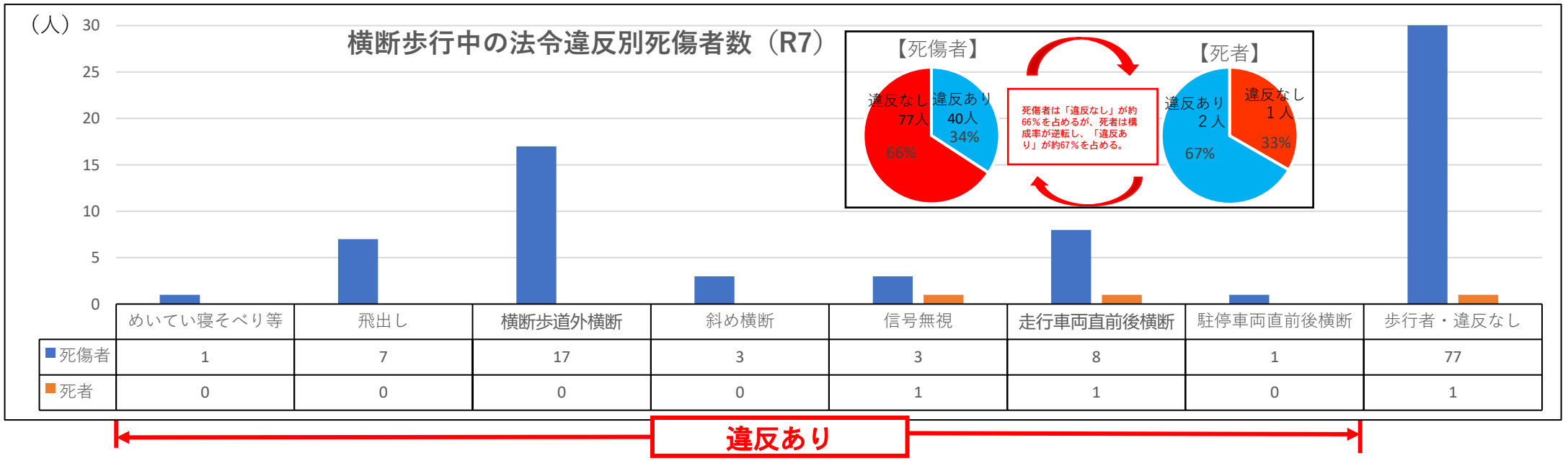


図10

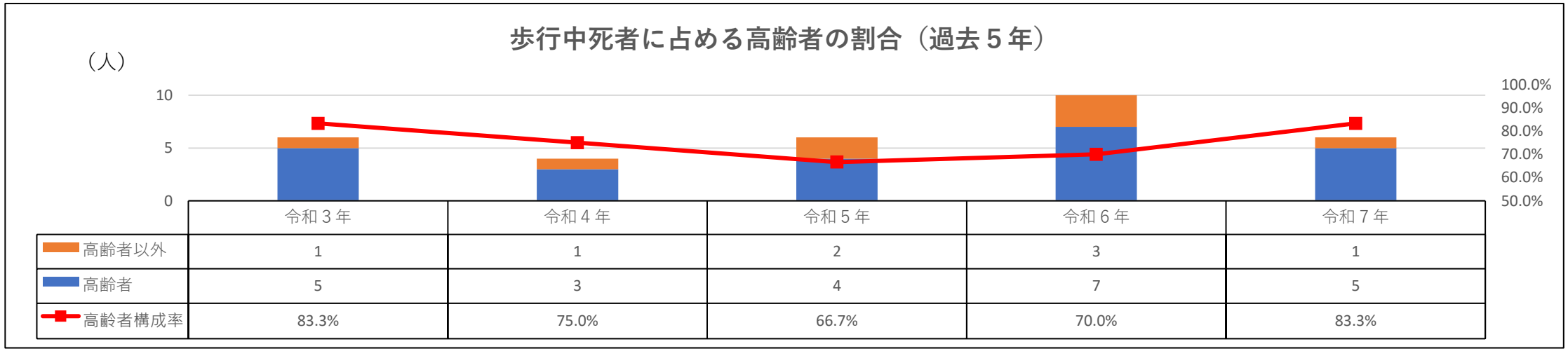


	めいてい寝そべり等	飛出し	横断歩道外横断	斜め横断	信号無視	走行車両直前後横断	駐停車両直前後横断	歩行者・違反なし
死傷者	1	7	17	3	3	8	1	77
死者	0	0	0	0	1	1	0	1

5－1　歩行中死傷者の状況について（高齢者）

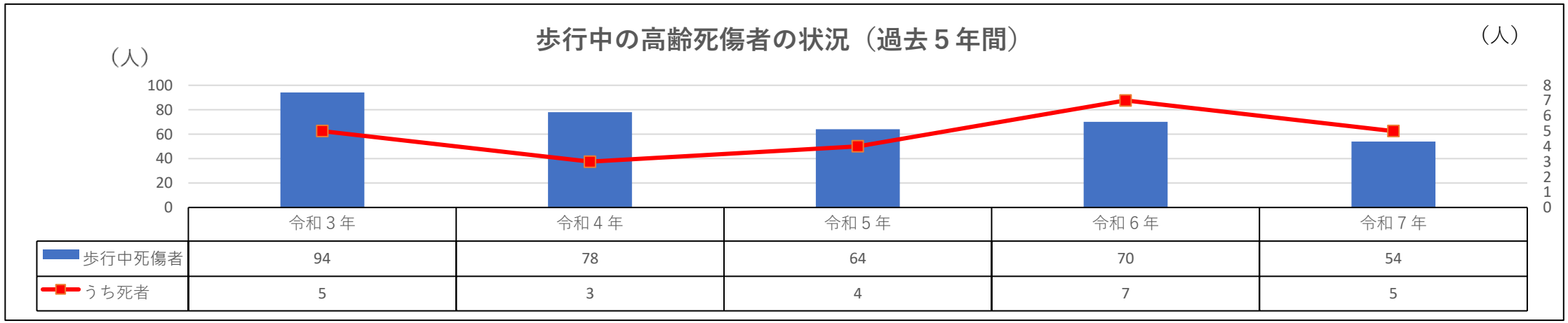
- 歩行中死者に占める高齢者の割合は前年より増加し、高水準を推移している（図１）
- 死傷者数及び死者数は前年より減少（図２）
- 時間帯別の死傷者は、６～７時台、18～19時台、22～23時台が最も多い（図３）
- 事故類型別の死者は、横断歩行中が全体の約70.8％を占める。（図４）
- 横断方向別の死者は、右から左が多い（図５）

図1



	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
高齢者以外	1	1	2	3	1
高齢者	5	3	4	7	5
高齢者構成率	83.3%	75.0%	66.7%	70.0%	83.3%

図2



	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
歩行中死傷者	94	78	64	70	54
うち死者	5	3	4	7	5

図3

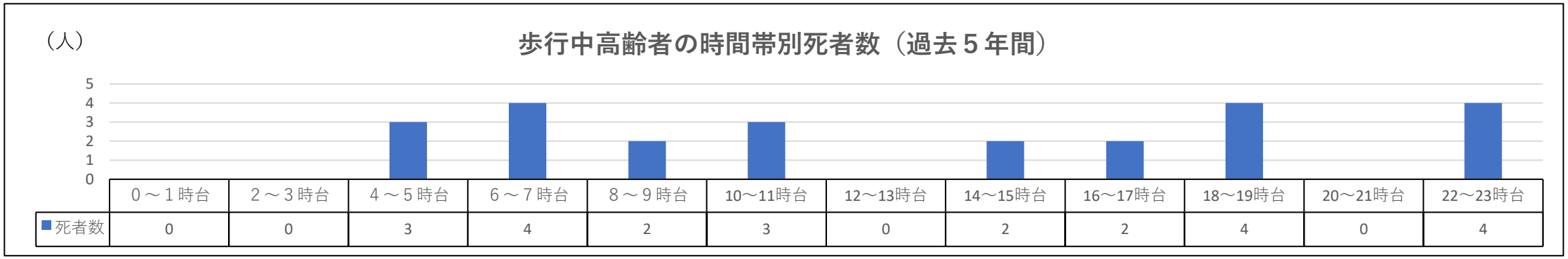


図4

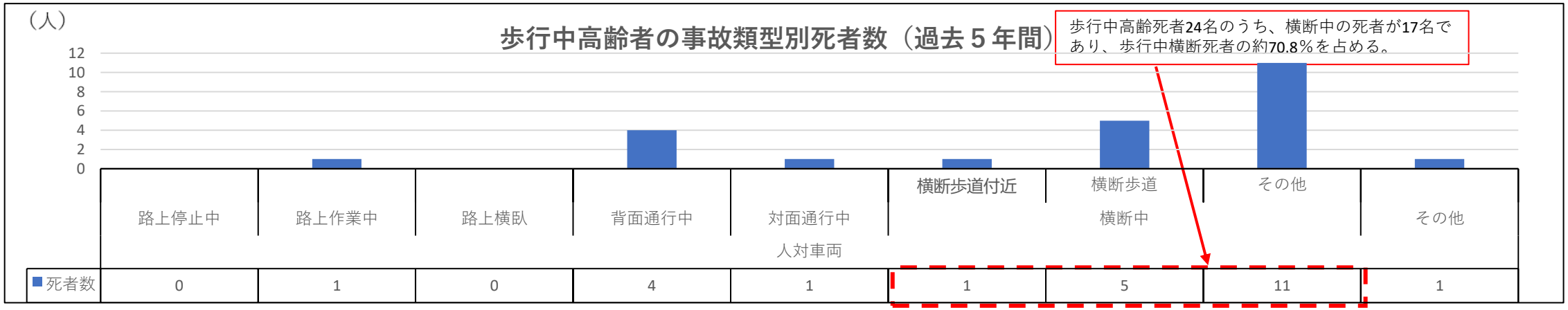
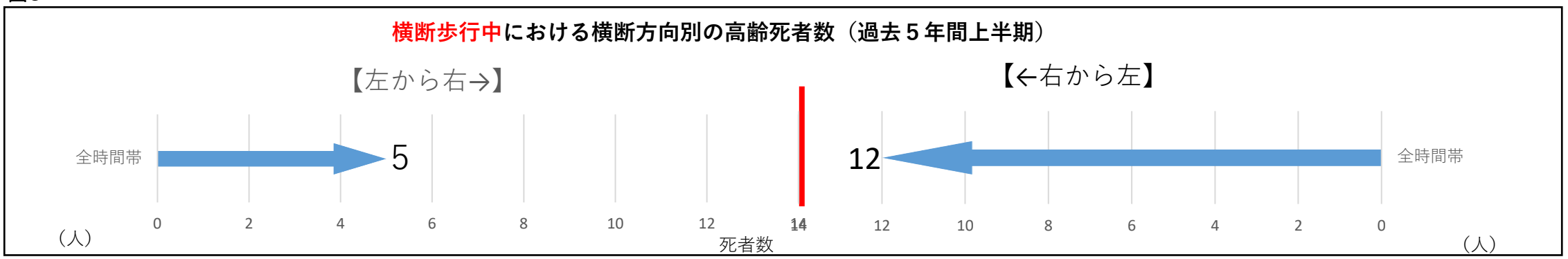


図5



注：歩行中高齢死者24人のうち、横断方向が判明している17人について分析を実施した。

6　こどもの事故の状況について

- 死者数は前年と比べ減少しているが、死傷者数は増加している（図１）
- 年代別の死傷者は、小学生及び中学生が多い（図２）
- 時間帯別の死傷者は、16～17時台が最も多く、次いで14～15時台が多い（図３）
- 状態別の死傷者は、自動車同乗中が最も多く、次いで歩行者等が多い（図４）
- こどもの歩行中死傷者のうち、横断歩行中死傷者が約81.8％を占める（図８）
- こどもの横断歩行中死傷者の約半数は小学１～３年生が占める（図９）　　など

図1

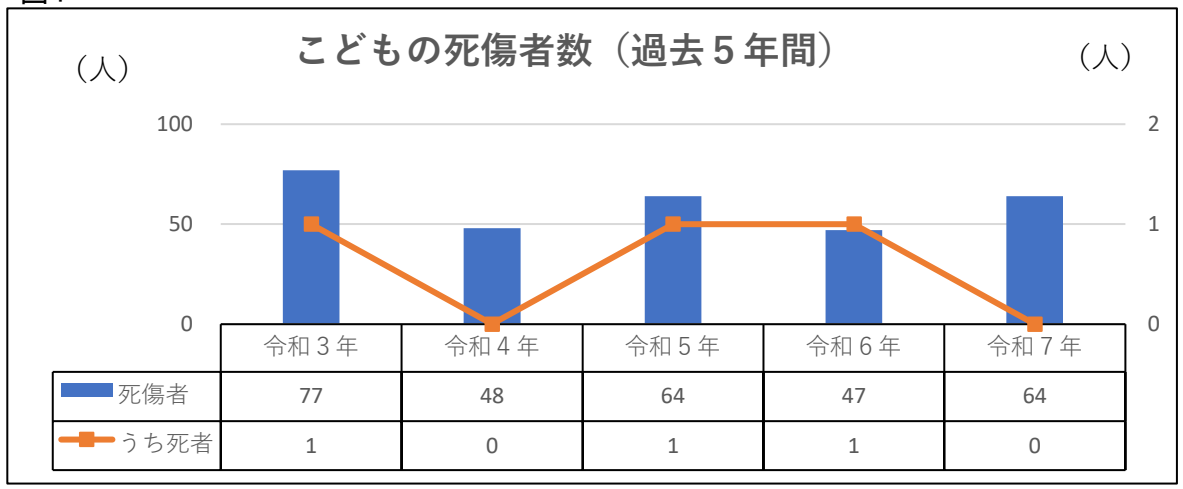


図2

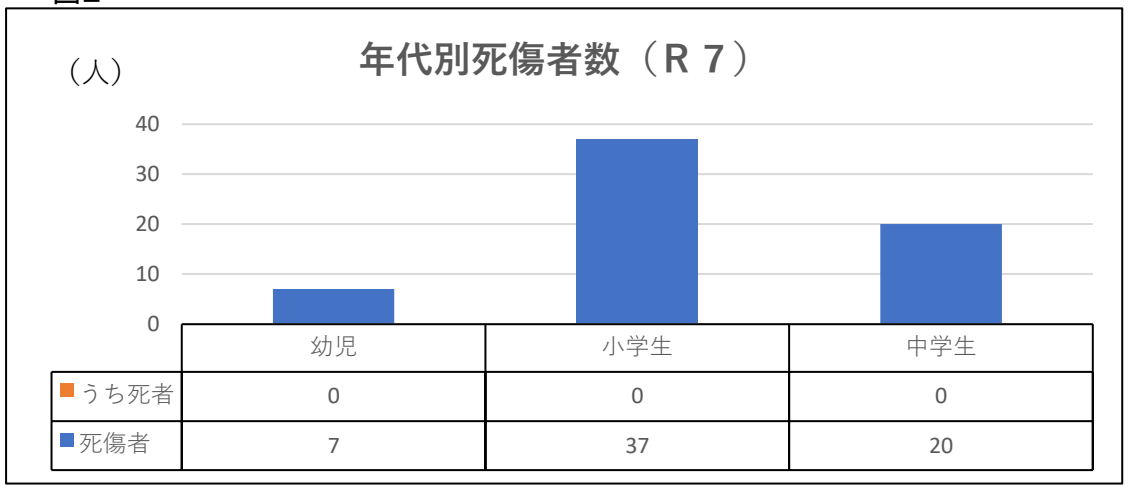


図3

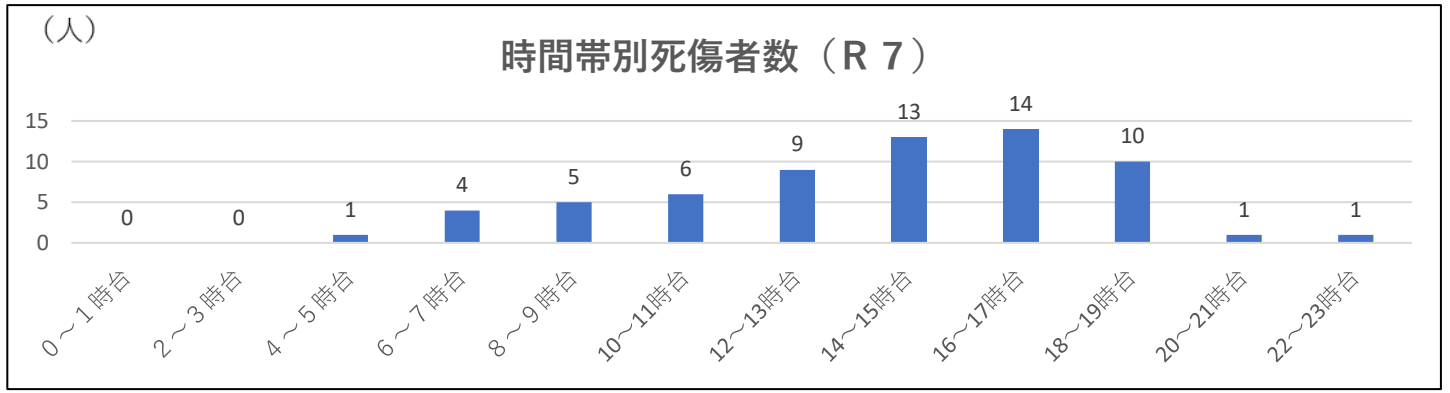


図4

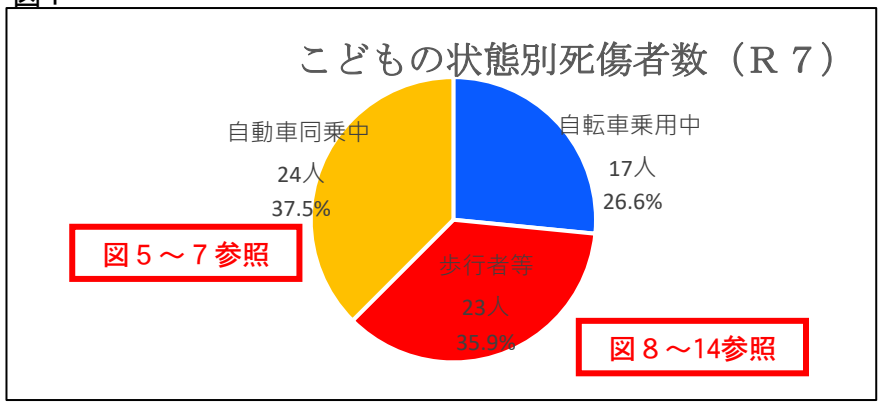


図5

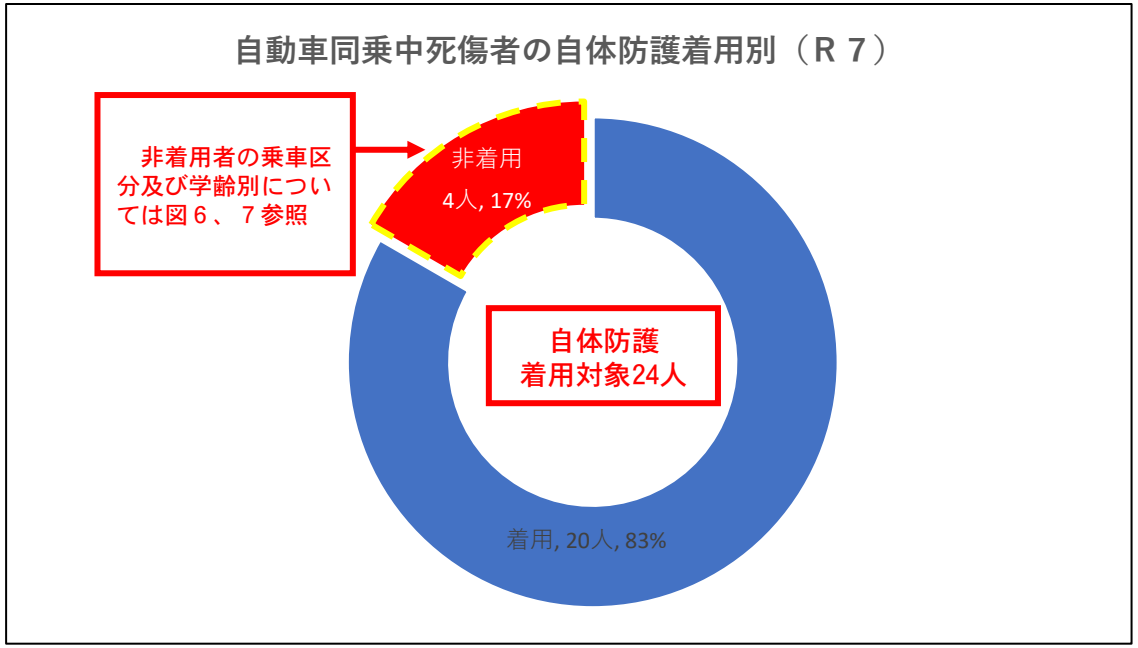

自動車同乗中死傷者の自体防護着用別（Ｒ７）
非着用者の乗車区分及び学齢別については図６、７参照
非着用
4人, 17%
自体防護
着用対象24人
着用, 20人, 83%

図6

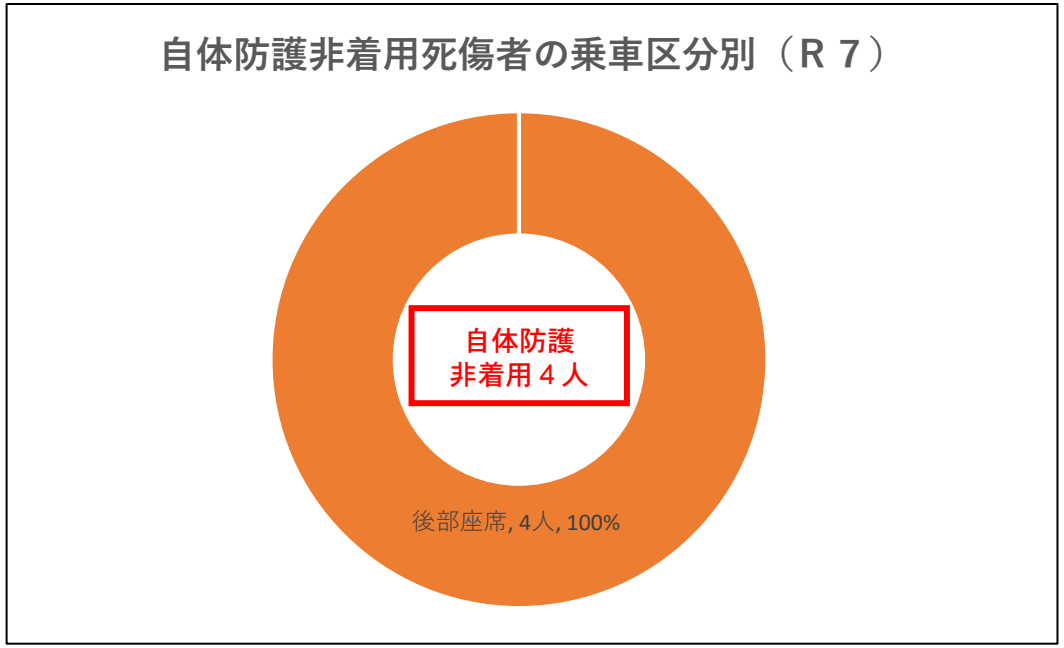

自体防護非着用死傷者の乗車区分別（Ｒ７）
自体防護
非着用４人
後部座席, 4人, 100%

図7

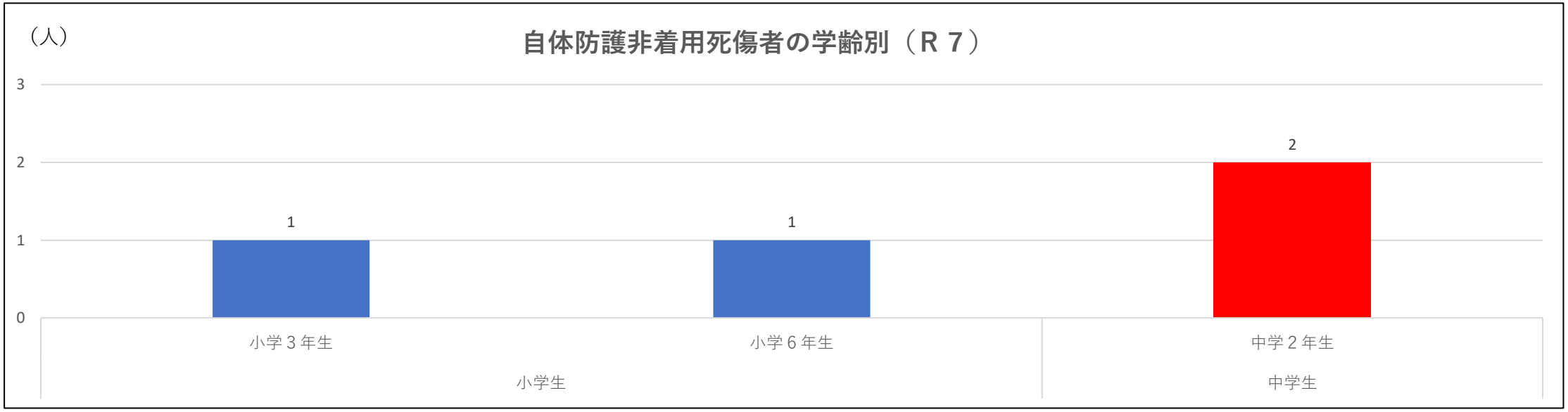

（人）
自体防護非着用死傷者の学齢別（Ｒ７）
3
2
1
0
1
1
2
小学３年生
小学６年生
中学２年生
小学生
中学生

図8

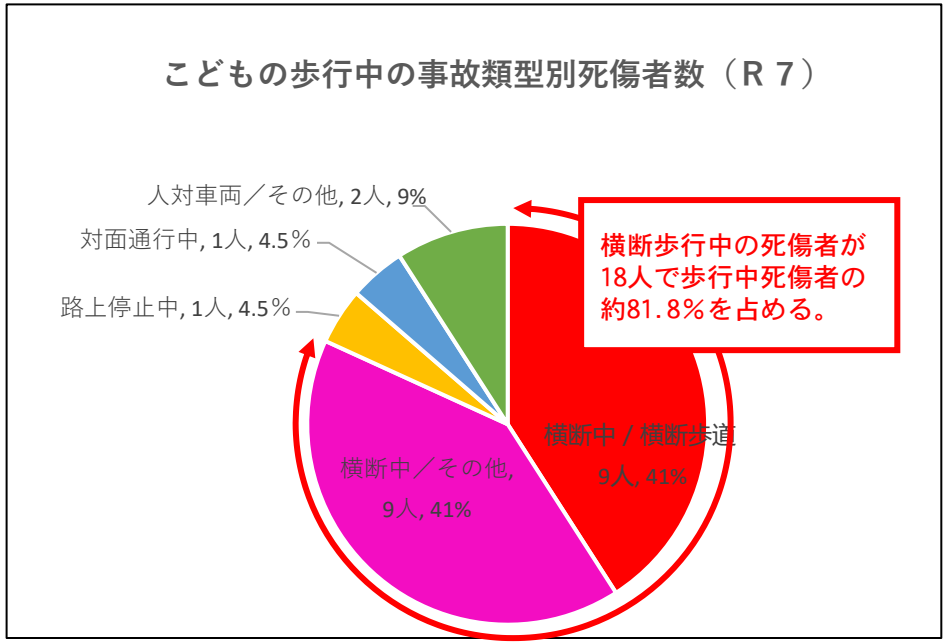

こどもの歩行中の事故類型別死傷者数（Ｒ７）
人対車両／その他, 2人, 9%
対面通行中, 1人, 4.5%
路上停止中, 1人, 4.5%
横断中／その他, 9人, 41%
横断中／横断歩道 9人, 41%
横断歩行中の死傷者が18人で歩行中死傷者の約81.8%を占める。

図9

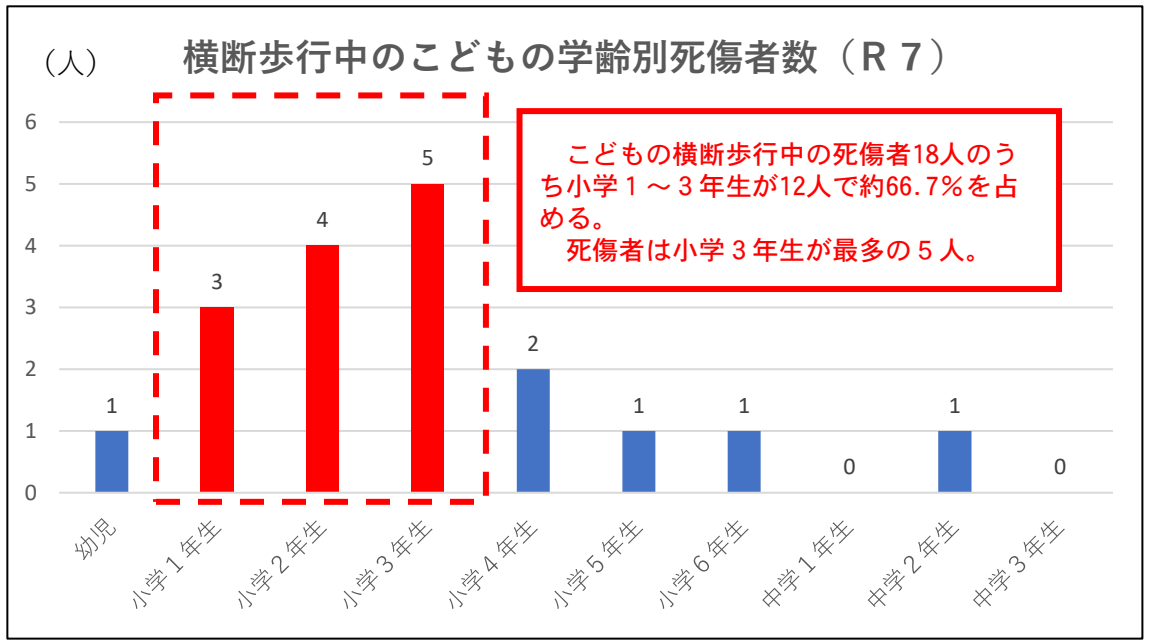

横断歩行中のこどもの学齢別死傷者数（Ｒ７）
（人）
6
5
4
3
2
1
0
1
3
4
5
2
1
1
0
1
0
幼児
小学１年生
小学２年生
小学３年生
小学４年生
小学５年生
小学６年生
中学１年生
中学２年生
中学３年生
こどもの横断歩行中の死傷者18人のうち小学１～３年生が12人で約66.7%を占める。
死傷者は小学３年生が最多の５人。

図10

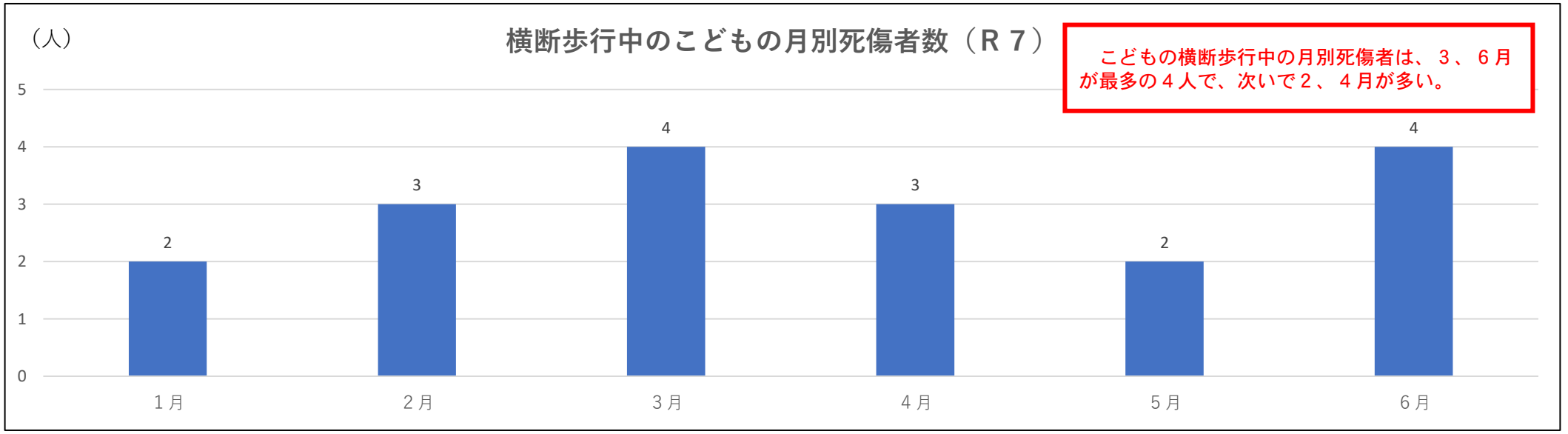

横断歩行中のこどもの月別死傷者数（Ｒ７）
（人）
5
4
3
2
1
0
2
3
4
3
2
4
１月
２月
３月
４月
５月
６月
こどもの横断歩行中の月別死傷者は、３、６月が最多の４人で、次いで２、４月が多い。

図11

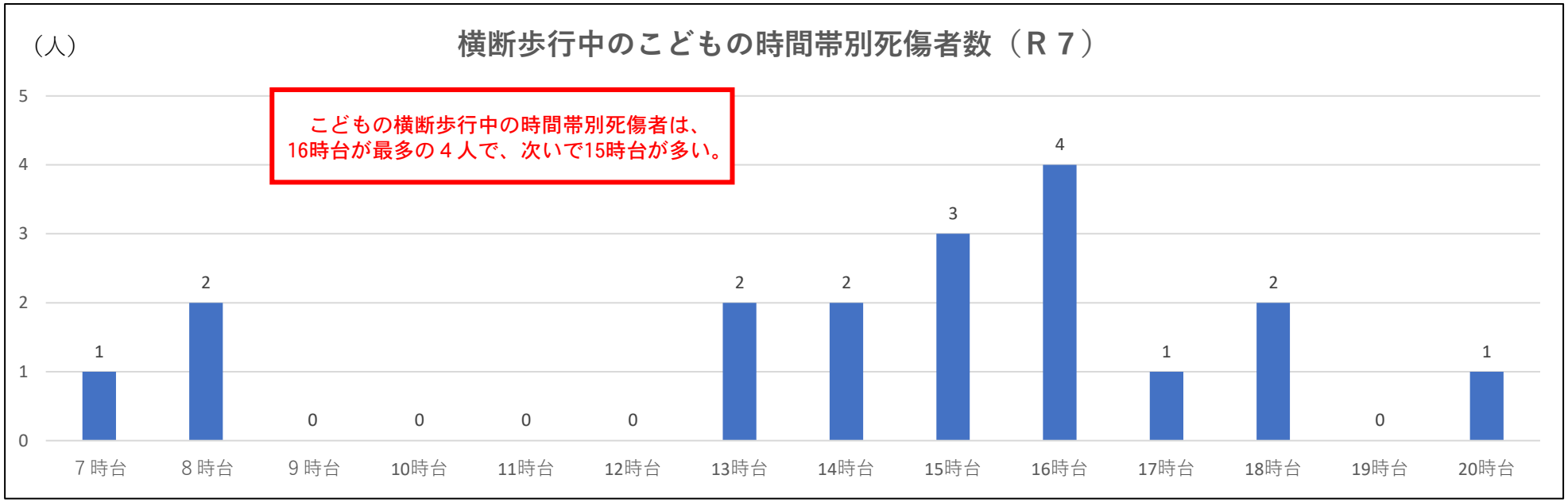

横断歩行中のこどもの時間帯別死傷者数（Ｒ７）
（人）
こどもの横断歩行中の時間帯別死傷者は、
16時台が最多の４人で、次いで15時台が多い。
5
4
3
2
1
0
1
2
0
0
0
0
2
2
3
4
1
2
0
1
7時台
8時台
9時台
10時台
11時台
12時台
13時台
14時台
15時台
16時台
17時台
18時台
19時台
20時台

図12

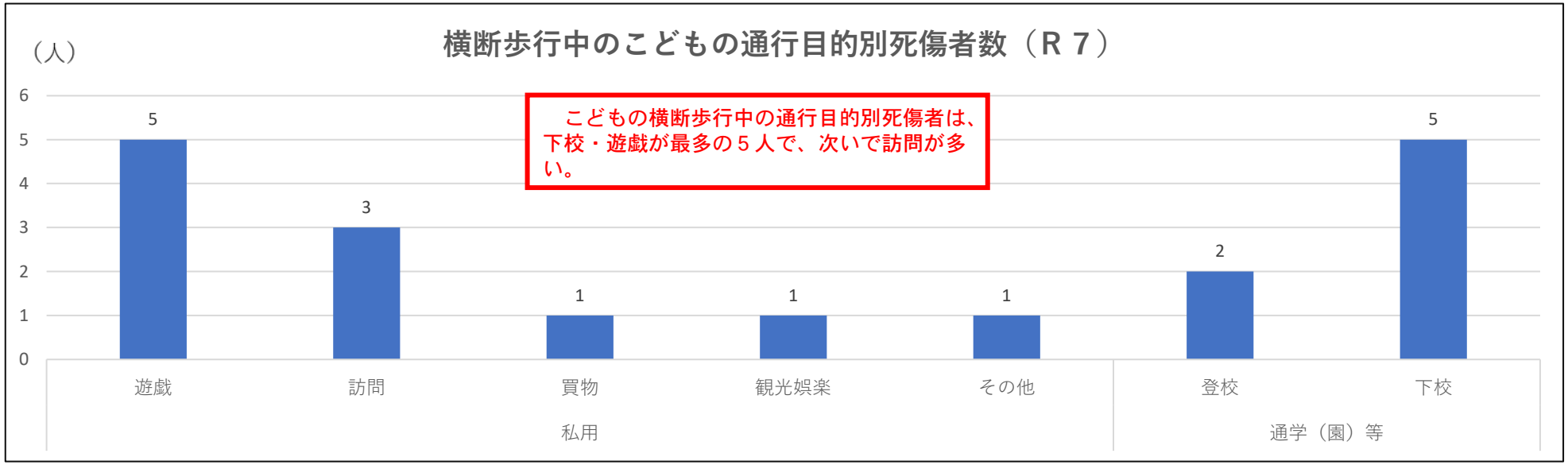

横断歩行中のこどもの通行目的別死傷者数（Ｒ７）
（人）
こどもの横断歩行中の通行目的別死傷者は、
下校・遊戯が最多の５人で、次いで訪問が多い。
6
5
4
3
2
1
0
5
3
1
1
1
2
5
遊戯
訪問
買物
観光娯楽
その他
登校
下校
私用
通学（園）等

図13

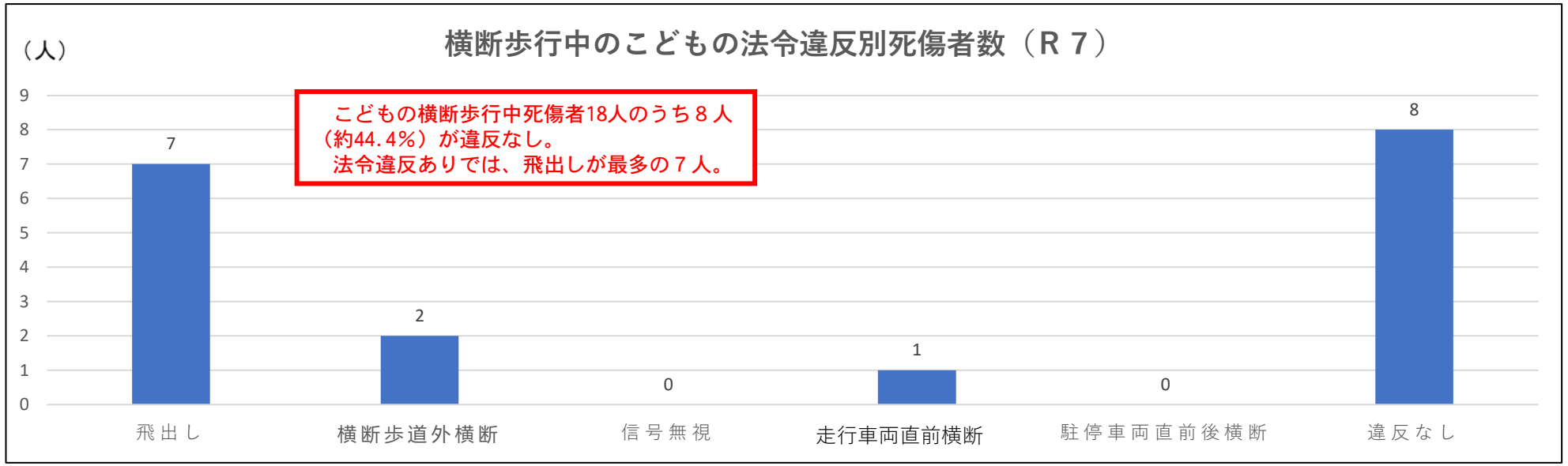
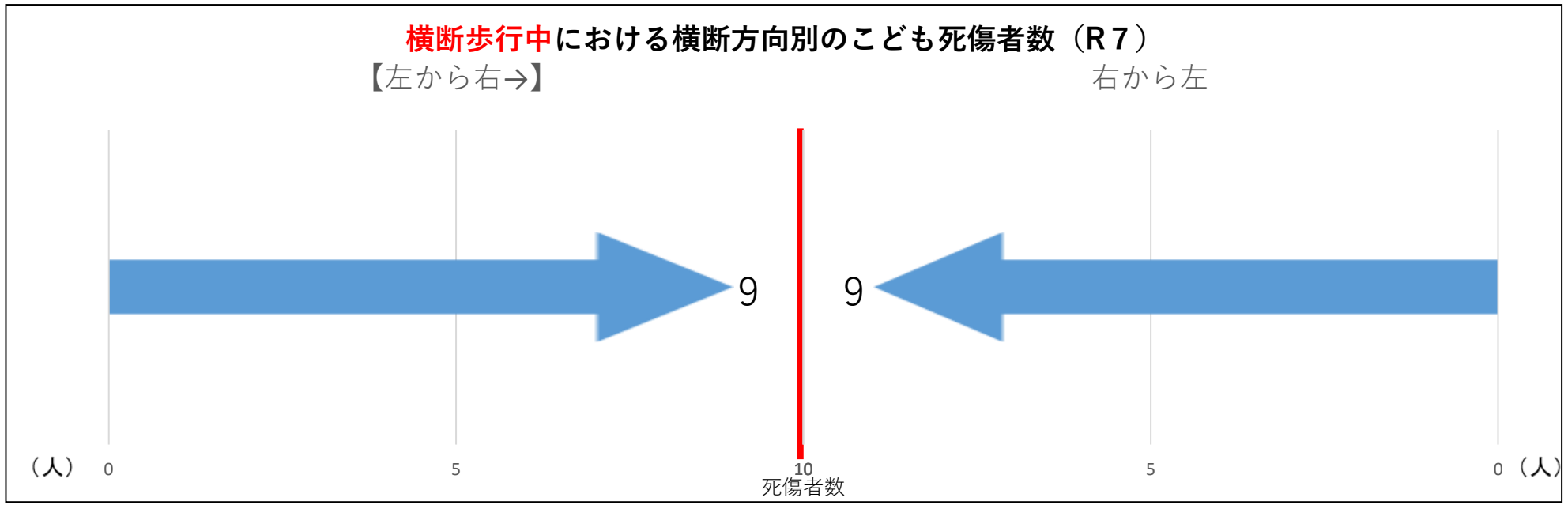

横断歩行中のこどもの法令違反別死傷者数（Ｒ７）
（人）
こどもの横断歩行中死傷者18人のうち８人（約44.4%）が違反なし。
法令違反ありでは、飛出しが最多の７人。
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
7
2
0
1
0
8
飛出し
横断歩道外横断
信号無視
走行車両直前横断
駐停車両直前後横断
違反なし

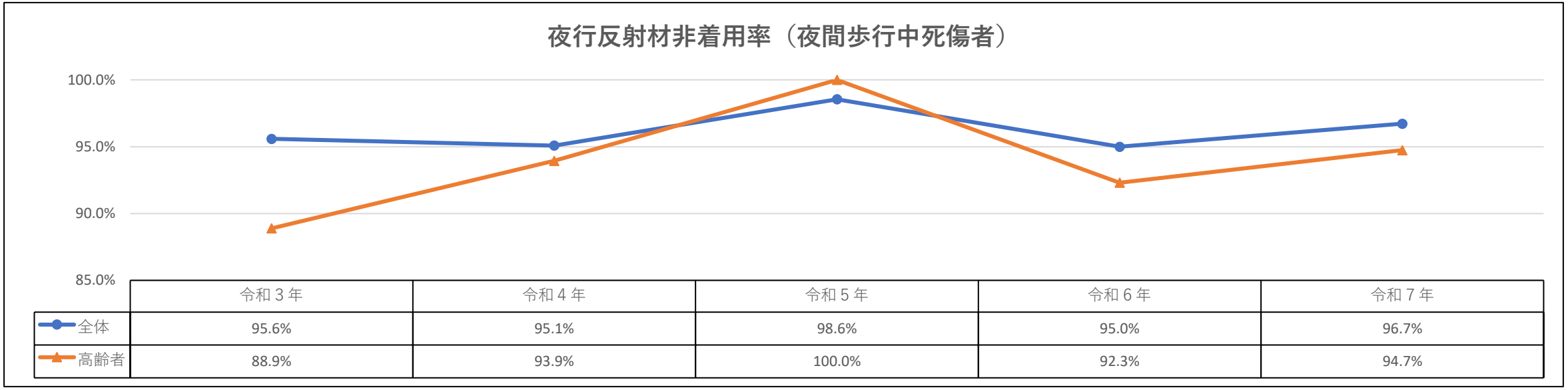
図14


横断歩行中における横断方向別のこども死傷者数（Ｒ７）
【左から右→】
右から左
9
9
（人）
0
5
10
5
0
（人）
死傷者数

7　反射材着用状況について

- 夜間歩行中の死傷者全体の約96.1％が反射材非着用（図１、表１）
- 全体、高齢者ともに非着用の割合は、前年に比べ増加（図１、表１，２）

図1



※調査不能は除く

表１　夜間歩行中死傷者（全体）

全体	死傷者総数	反射材あり	反射材なし	非着用率
R3	68	3	65	95.6%
R4	61	3	58	95.1%
R5	69	1	68	98.6%
R6	80	4	76	95.0%
R7	61	2	59	96.7%

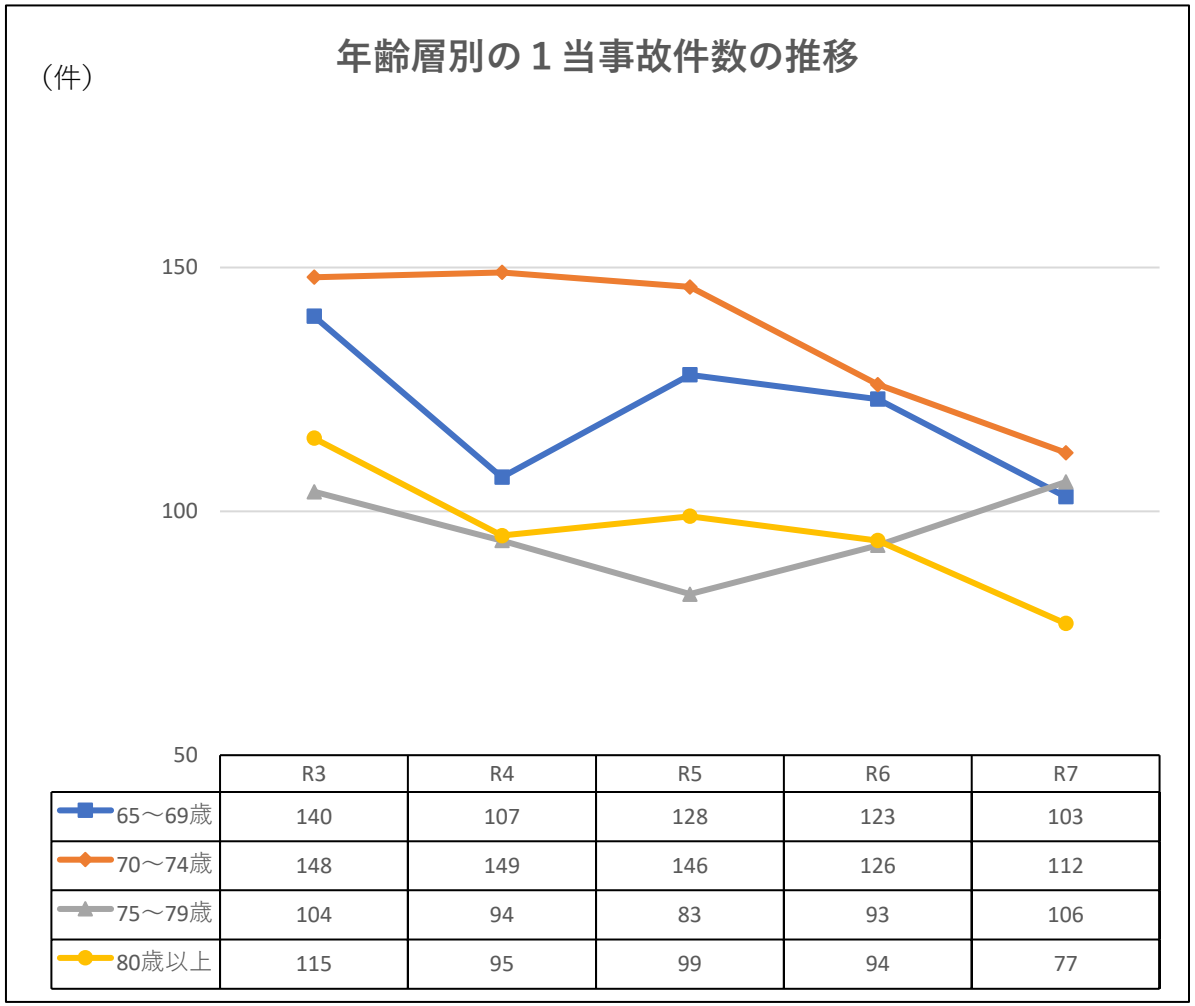
表２　夜間歩行中死傷者（高齢者）

高齢者	死傷者総数	反射材あり	反射材なし	非着用率
R3	27	3	24	88.9%
R4	33	2	31	93.9%
R5	19	0	19	100.0%
R6	26	2	24	92.3%
R7	19	1	18	94.7%

8　高齢運転者事故（第1当一般原付以上）の状況について

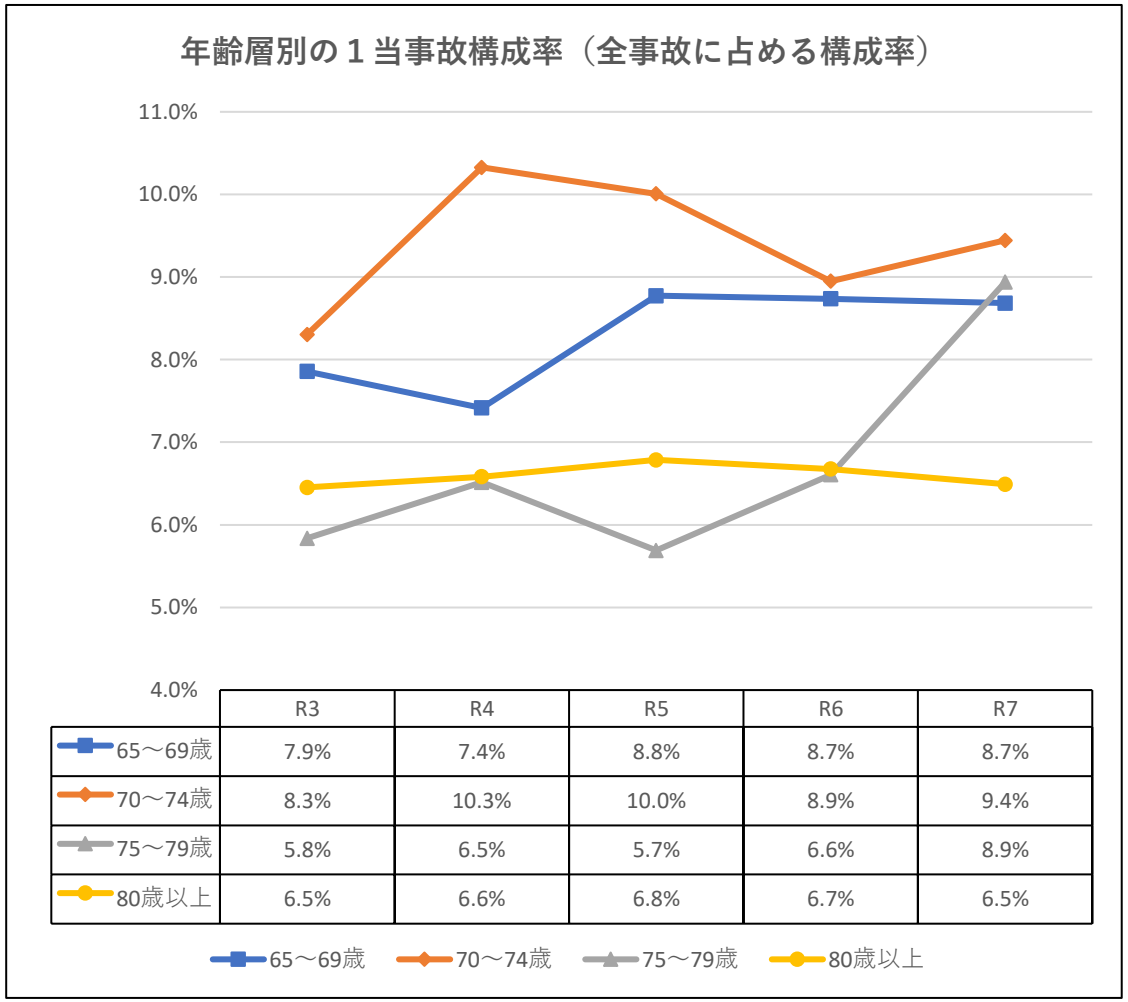
- 年齢層別の第１当事故件数は、前年より75～79歳の年齢層で増加し、他の年齢層は減少した。（図１）
- 年齢層別の事故全体に占める構成率は、前年より70～74歳、75～79歳で増加し、80歳以上の年齢層は減少した。（図２）
- 高齢運転者（第１当一般原付以上）による交通死亡事故は10件で、交通死亡事故全体の約55.6％を占める（図３）
- 高齢運転者（第１当一般原付以上）による交通死亡事故の法令違反別では、操作不適が最も多く、次いで前方不注意となっている。（図４、５）

図1



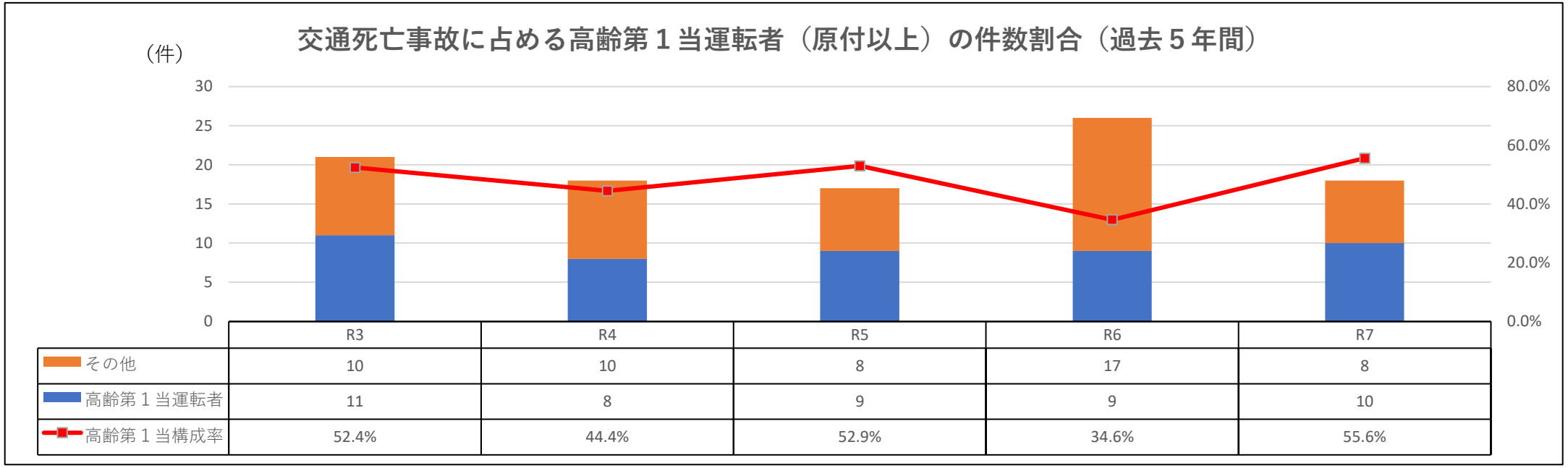
	R3	R4	R5	R6	R7
65～69歳	140	107	128	123	103
70～74歳	148	149	146	126	112
75～79歳	104	94	83	93	106
80歳以上	115	95	99	94	77

図2



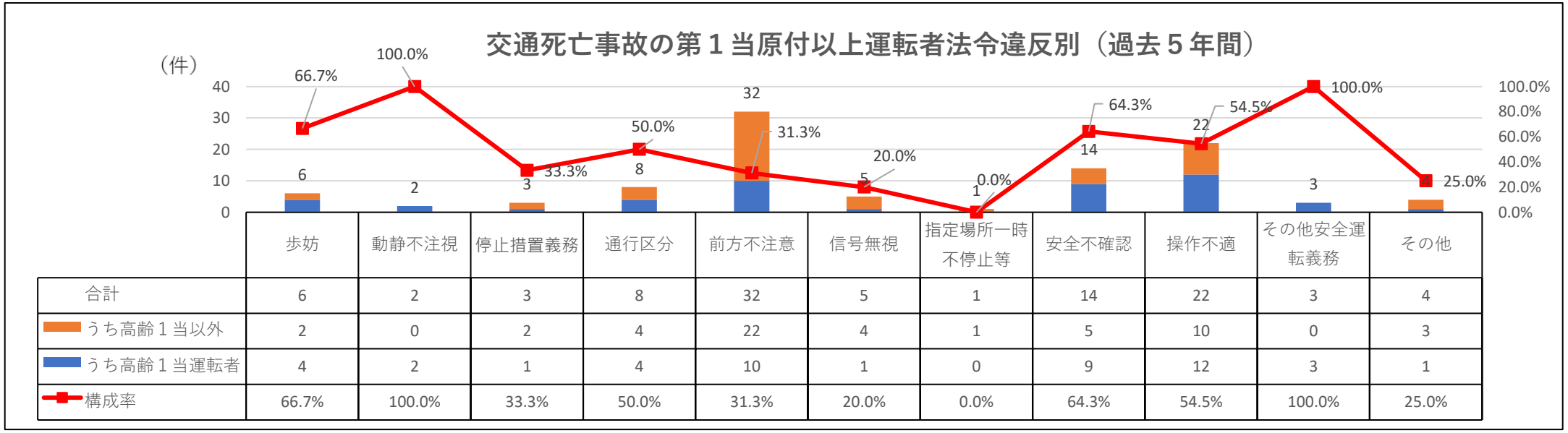
	R3	R4	R5	R6	R7
65～69歳	7.9%	7.4%	8.8%	8.7%	8.7%
70～74歳	8.3%	10.3%	10.0%	8.9%	9.4%
75～79歳	5.8%	6.5%	5.7%	6.6%	8.9%
80歳以上	6.5%	6.6%	6.8%	6.7%	6.5%

図3



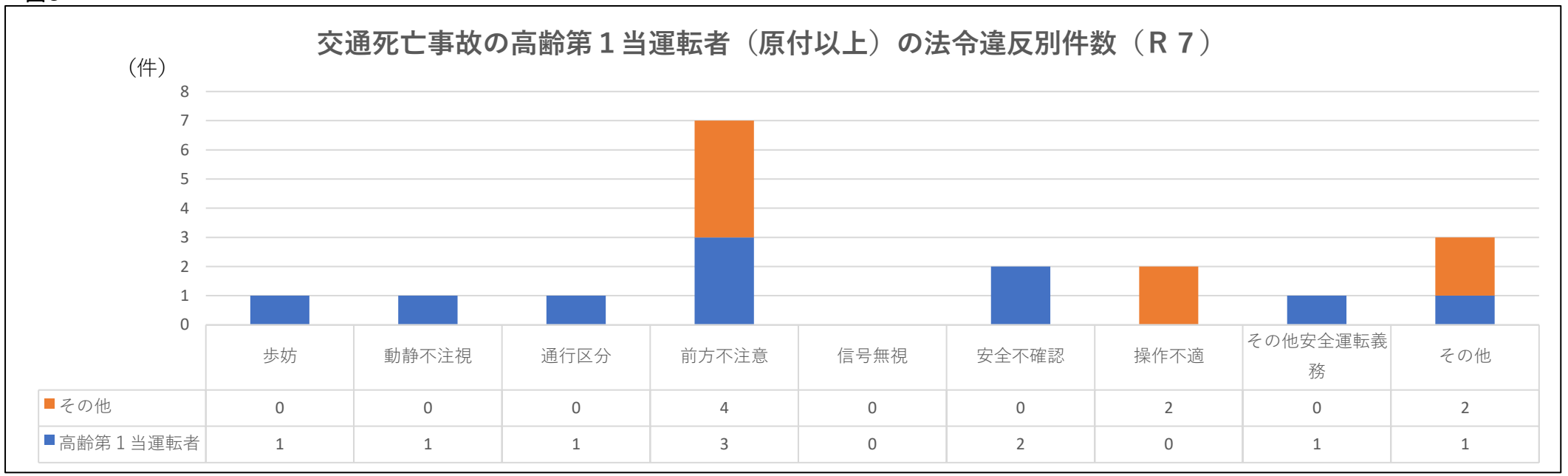
	R3	R4	R5	R6	R7
その他	10	10	8	17	8
高齢第１当運転者	11	8	9	9	10
高齢第１当構成率	52.4%	44.4%	52.9%	34.6%	55.6%

図4



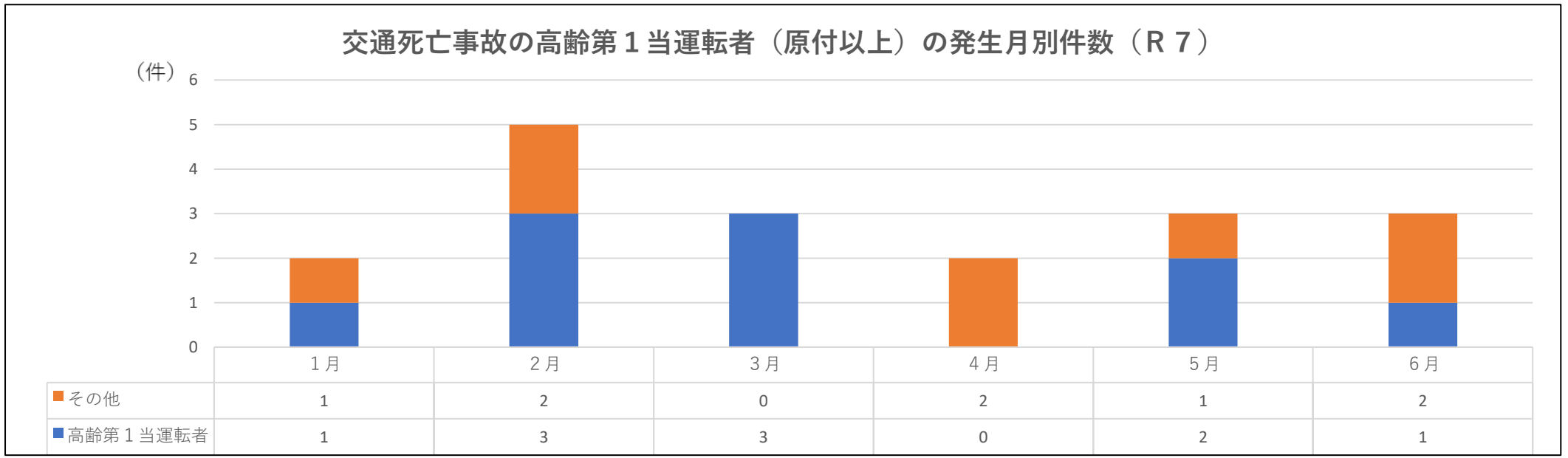
	歩妨	動静不注視	停止措置義務	通行区分	前方不注意	信号無視	指定場所一時不停止等	安全不確認	操作不適	その他安全運転義務	その他
合計	6	2	3	8	32	5	1	14	22	3	4
うち高齢１当以外	2	0	2	4	22	4	1	5	10	0	3
うち高齢１当運転者	4	2	1	4	10	1	0	9	12	3	1
構成率	66.7%	100.0%	33.3%	50.0%	31.3%	20.0%	0.0%	64.3%	54.5%	100.0%	25.0%

図5



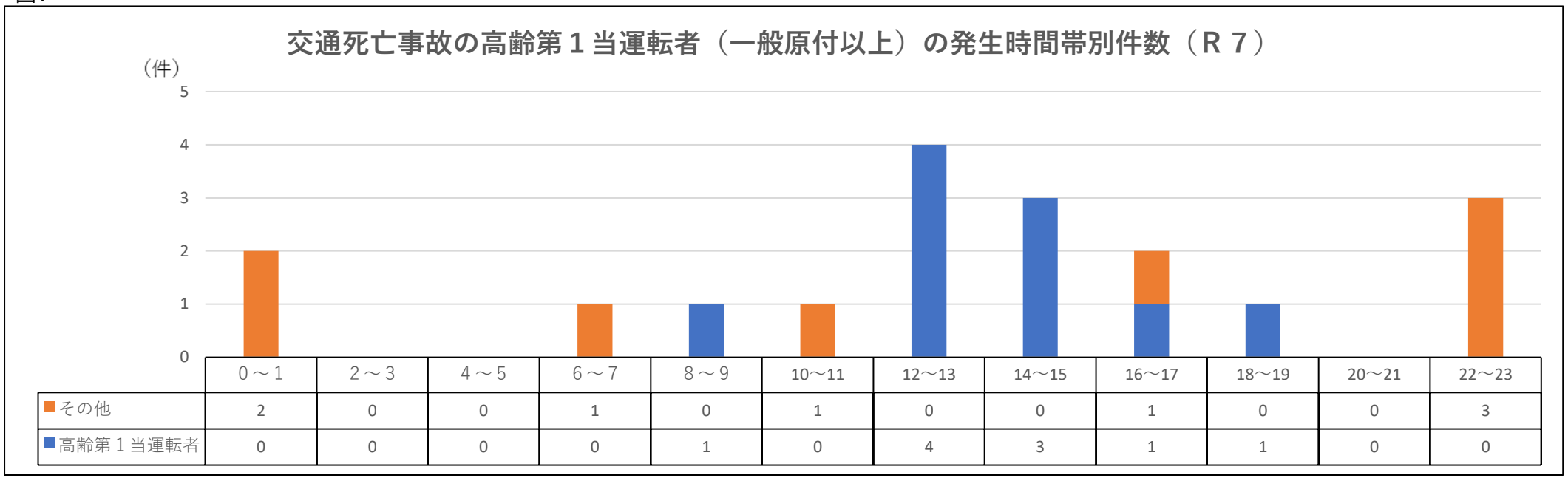
	歩妨	動静不注視	通行区分	前方不注意	信号無視	安全不確認	操作不適	その他安全運転義務	その他
その他	0	0	0	4	0	0	2	0	2
高齢第１当運転者	1	1	1	3	0	2	0	1	1

図6



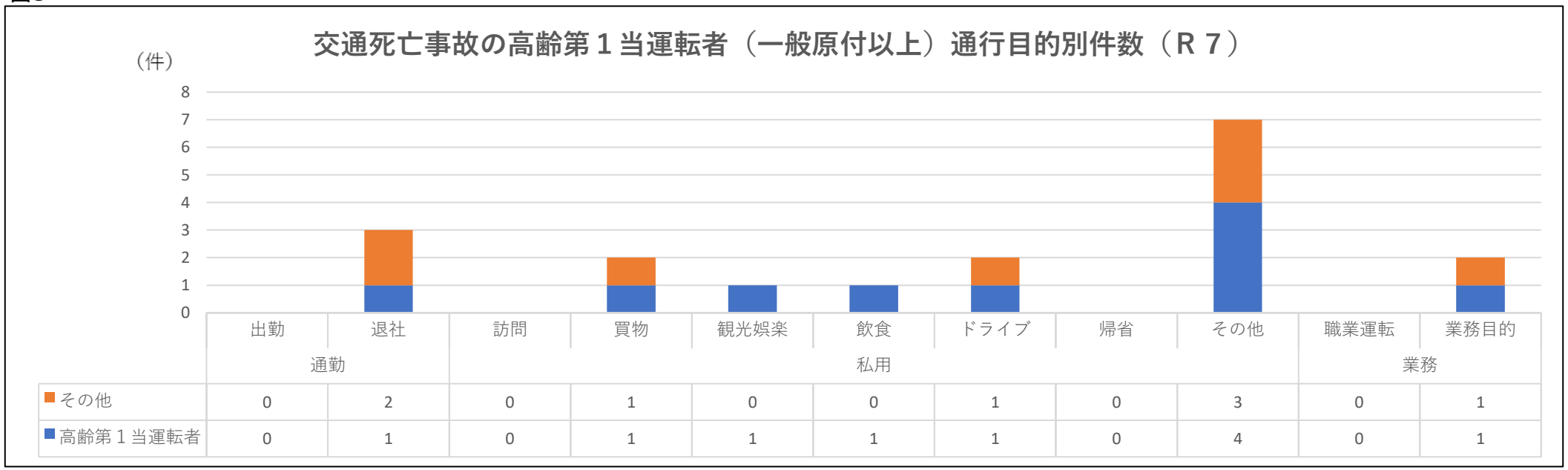
	１月	２月	３月	４月	５月	６月
その他	1	2	0	2	1	2
高齢第１当運転者	1	3	3	0	2	1

図7



	0～1	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14～15	16～17	18～19	20～21	22～23
その他	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3
高齢第１当運転者	0	0	0	0	1	0	4	3	1	1	0	0

図8

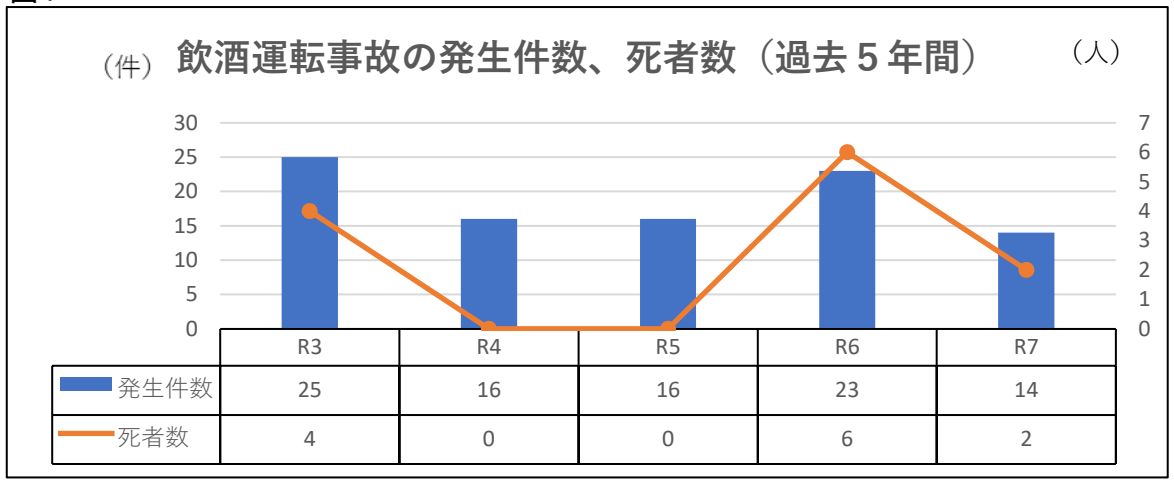


	出勤	退社	訪問	買物	観光娯楽	飲食	ドライブ	帰省	その他	職業運転	業務目的
	通勤		私用							業務	
その他	0	2	0	1	0	0	1	0	3	0	1
高齢第１当運転者	0	1	0	1	1	1	1	0	4	0	1

9　飲酒運転事故（第1当一般原付以上）の状況について

- 発生件数、死者数ともに前年より減少（図１）
- 発生曜日は土曜日が最も多く、次いで日曜日が多い（図２）
- 発生時間帯は２～３時台、４～５時台、８～９時台、10～11時台、16～17時台が多い（図３）
- 車種別では普乗が最も多く、次いで軽四乗が多い（図４）

図1



	R3	R4	R5	R6	R7
発生件数	25	16	16	23	14
死者数	4	0	0	6	2

図2

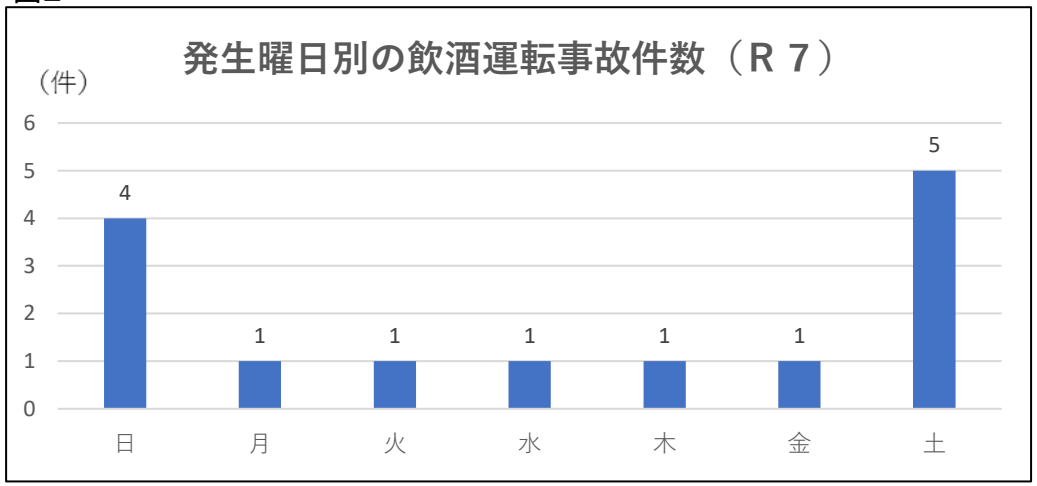


図3

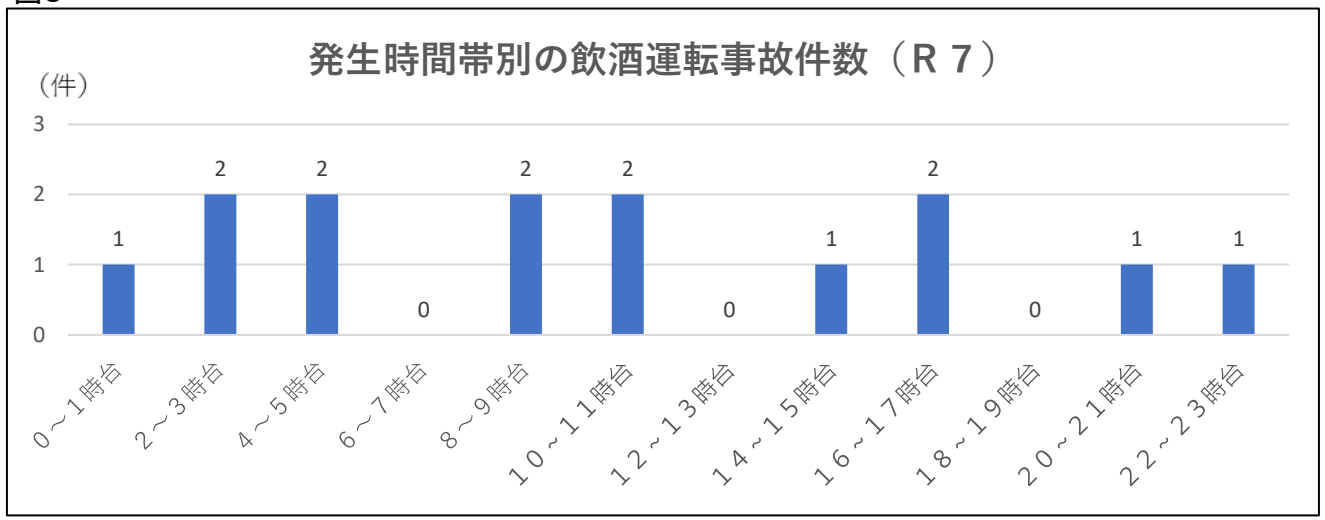
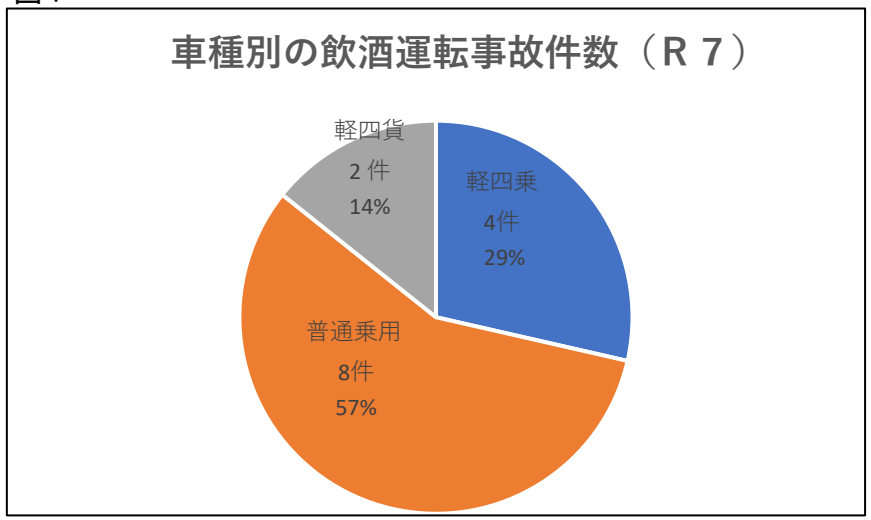



図4